

Ⅱ 市民調査

1. 回答者の状況

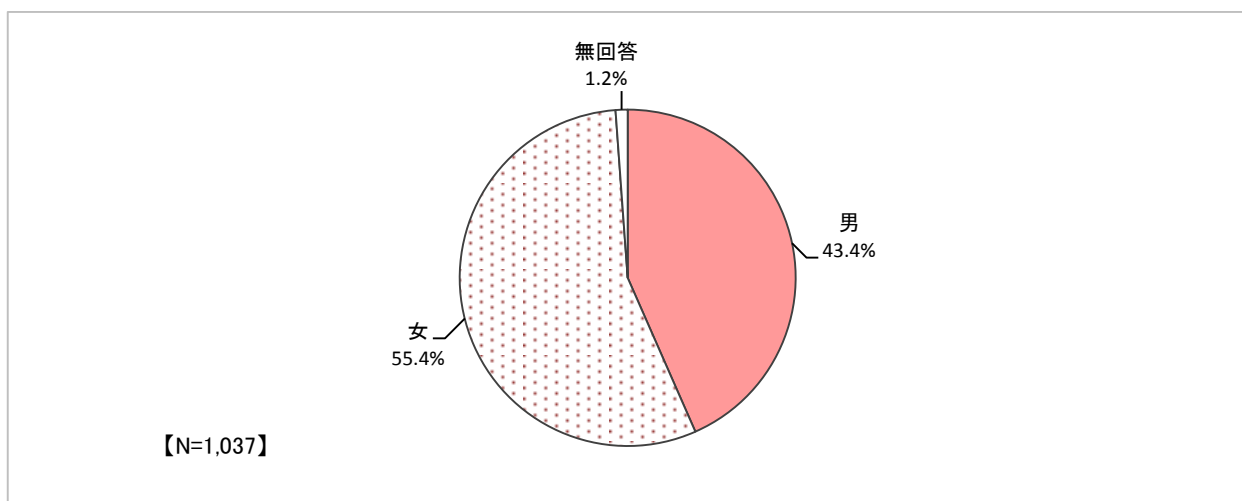
(1) 性別

性別は、「男」が43.4%、「女」が55.4%で、女性が男性をやや上回っています。

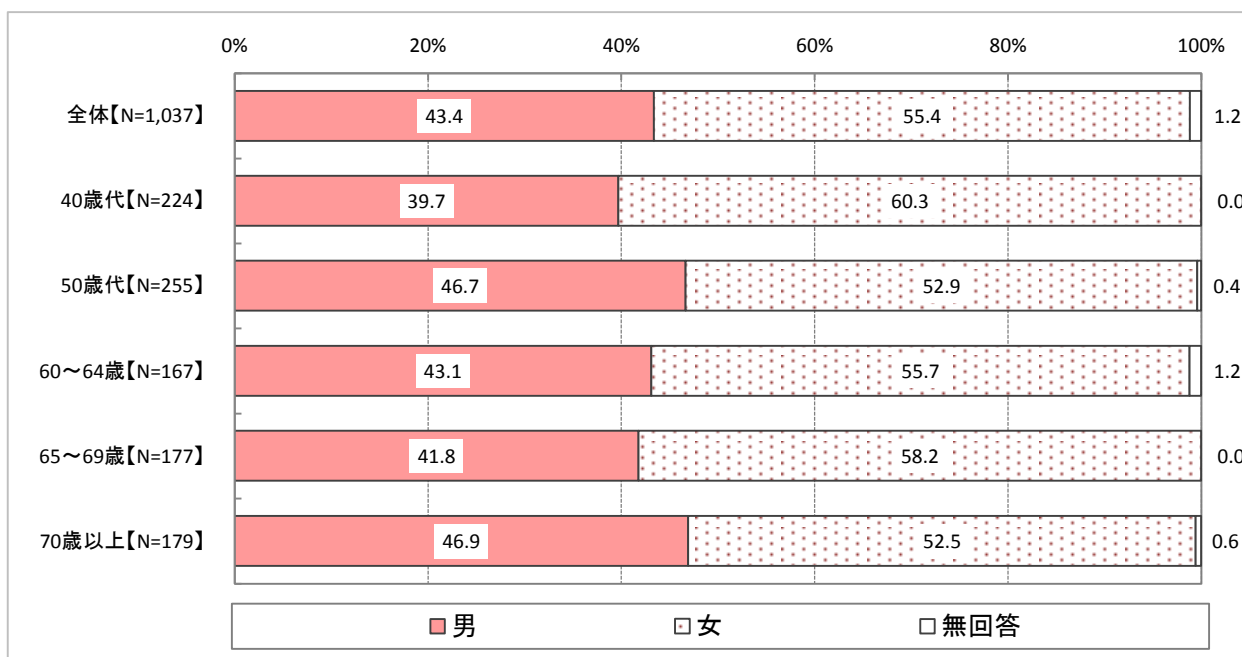
年齢別にみると、いずれの年齢でも女性が男性をやや上回っています。

中学校区別にみると、鳥居本中学校区以外は女性が男性をやや上回っていますが、鳥居本中学校区は男性が女性をやや上回っています。

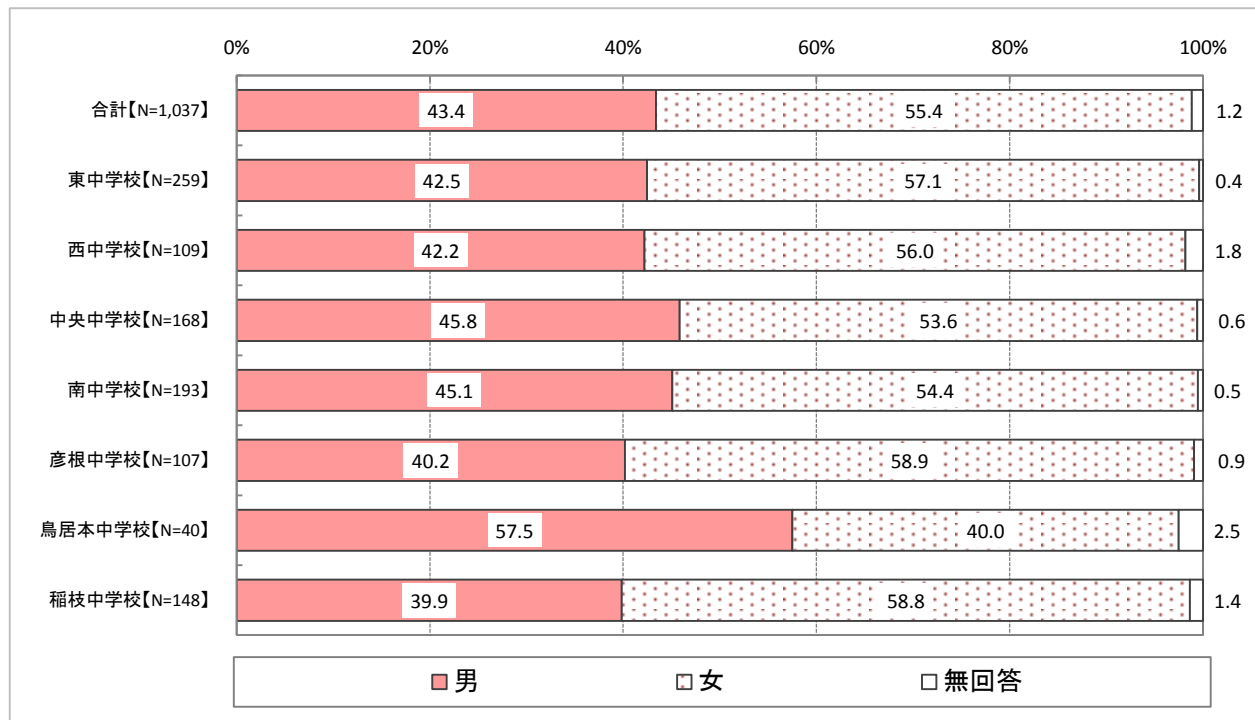
【図 1 性別】



【図 2 性別／年齢別】



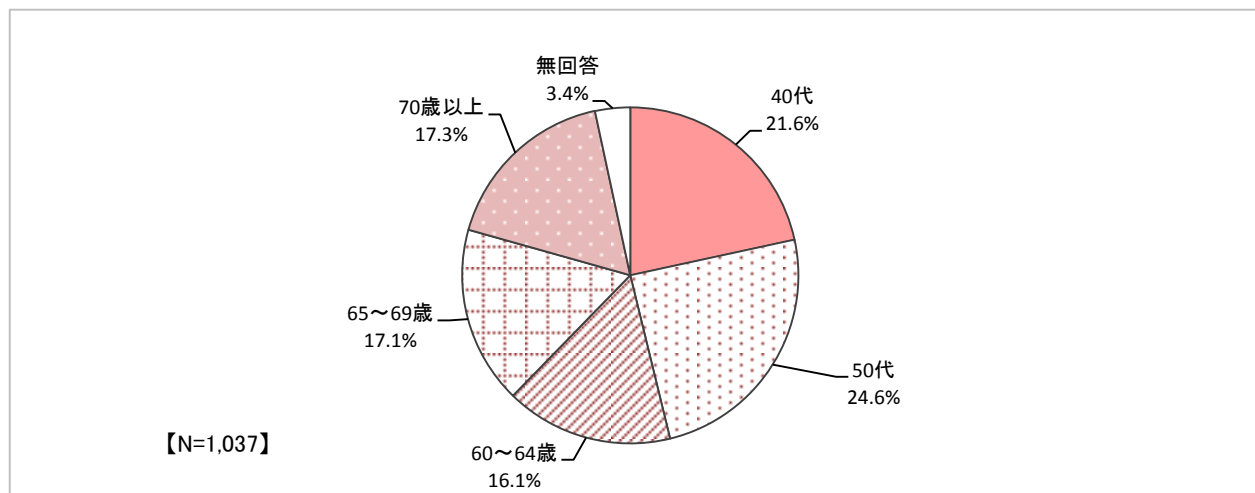
【図 3 性別／中学校区別】



(2) 年齢

年齢は、「50 歳代」が 24.6%と最も多く、次いで「40 歳代」が 21.6%、「70 歳以上」が 17.3%、「65～69 歳」が 17.1%、「60～64 歳」が 16.1%となっています。

【図 4 年齢】

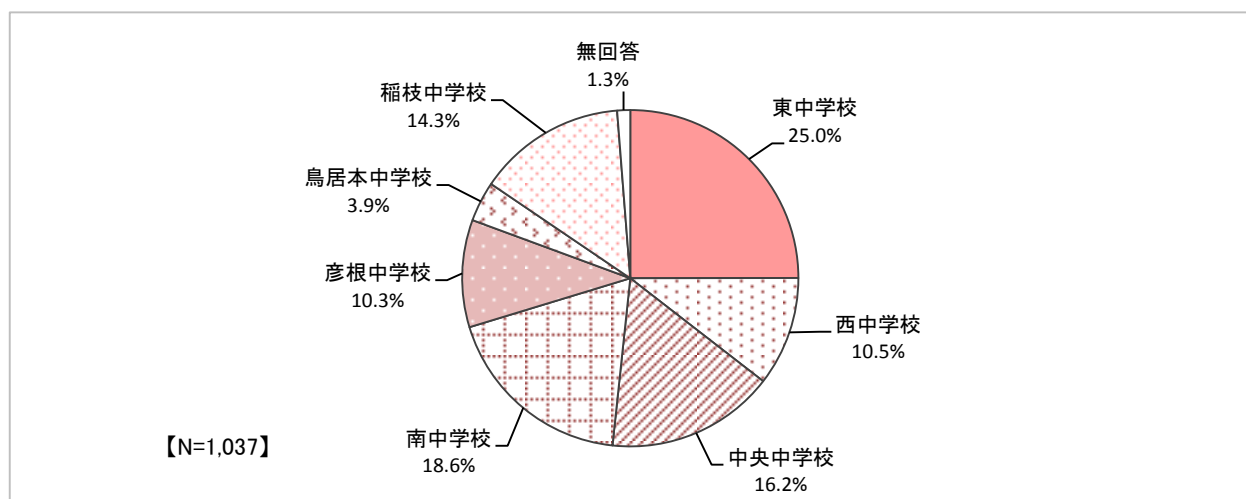


(3) 中学校区

中学校区は、「東中学校区」が25.0%と最も多く、次いで「南中学校区」が18.6%、「中央中学校区」が16.2%となっています。

年齢別にみると、いずれの年齢でも「東中学校」が最も多くなっています。次いで40～64歳までは「南中学校」、65歳以上は「中央中学校」となっています。

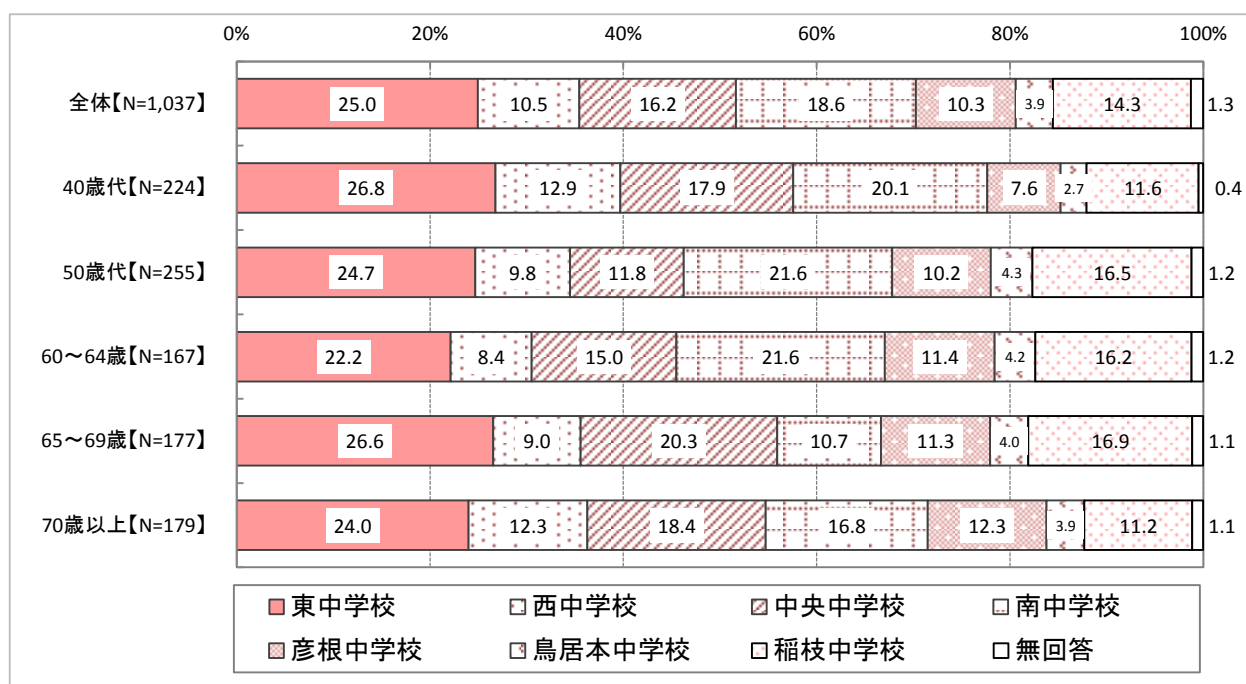
【図5 中学校区】



※質問では小学校区を尋ねていますが、中学校区ごとにまとめて集計しています

中学校区	小学校	中学校区	小学校
東中学校	城東、佐和山、旭森	彦根中学校	河瀬、高宮
西中学校	城西、城北	鳥居本中学校	鳥居本
中央中学校	平田、金城	稲枝中学校	稲枝東、稲枝西、稲枝北
南中学校	城南、城陽、若葉、亀山		

【図6 中学校区／年齢別】

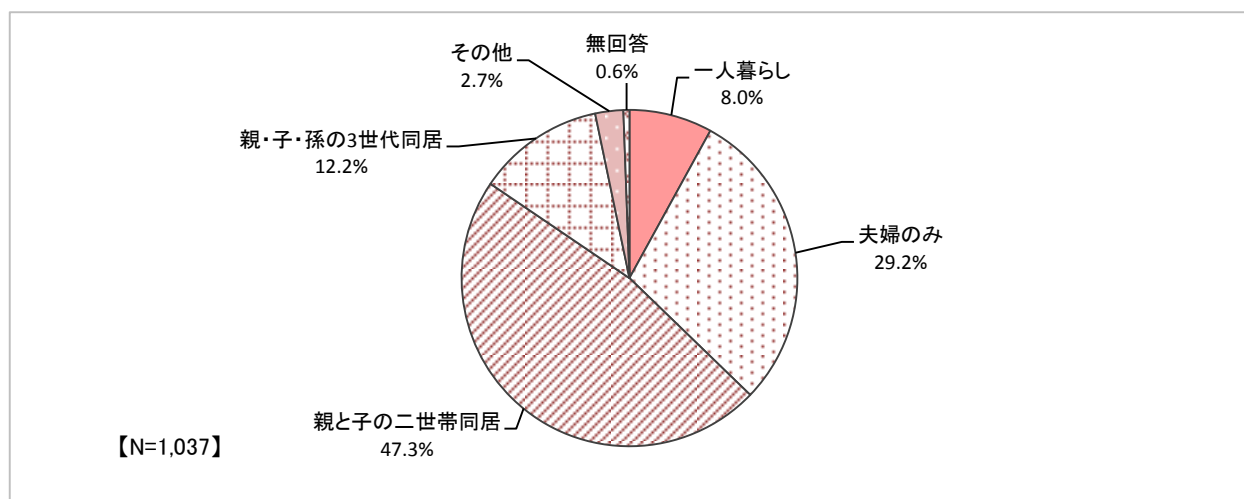


(4) 家族構成

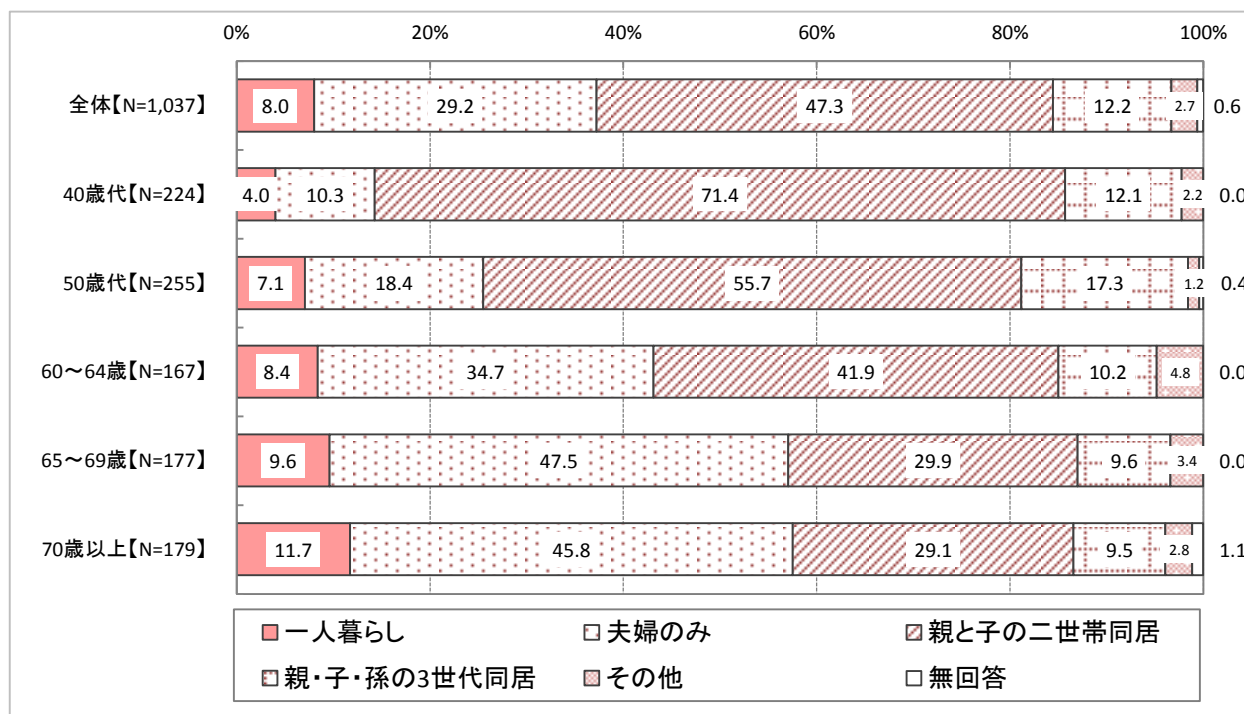
家族構成は、「親と子の二世帯同居」が 47.3%と最も多く、約半数を占めています。次いで「夫婦のみ」が 29.2%、「親・子・孫の3世代同居」が 12.2%となっています。

年齢別にみると、年齢が高いほど、「一人暮らし」が多くなっています。また「夫婦のみ」も概ね年齢が高いほど多くなっています。

【図 7 家族構成】



【図 8 家族構成／年齢別】

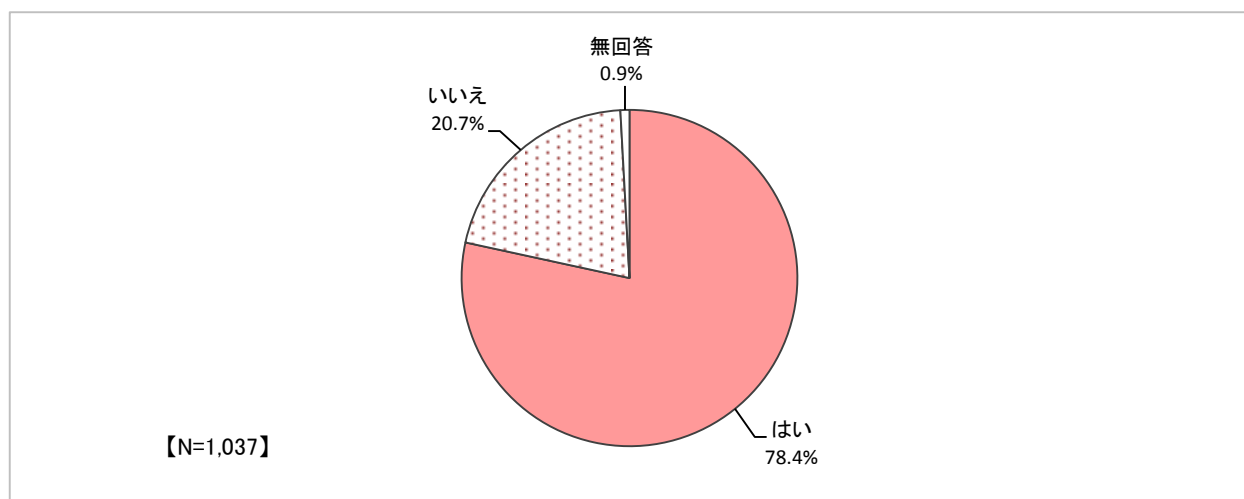


(5) 定期的な医療機関の受診有無

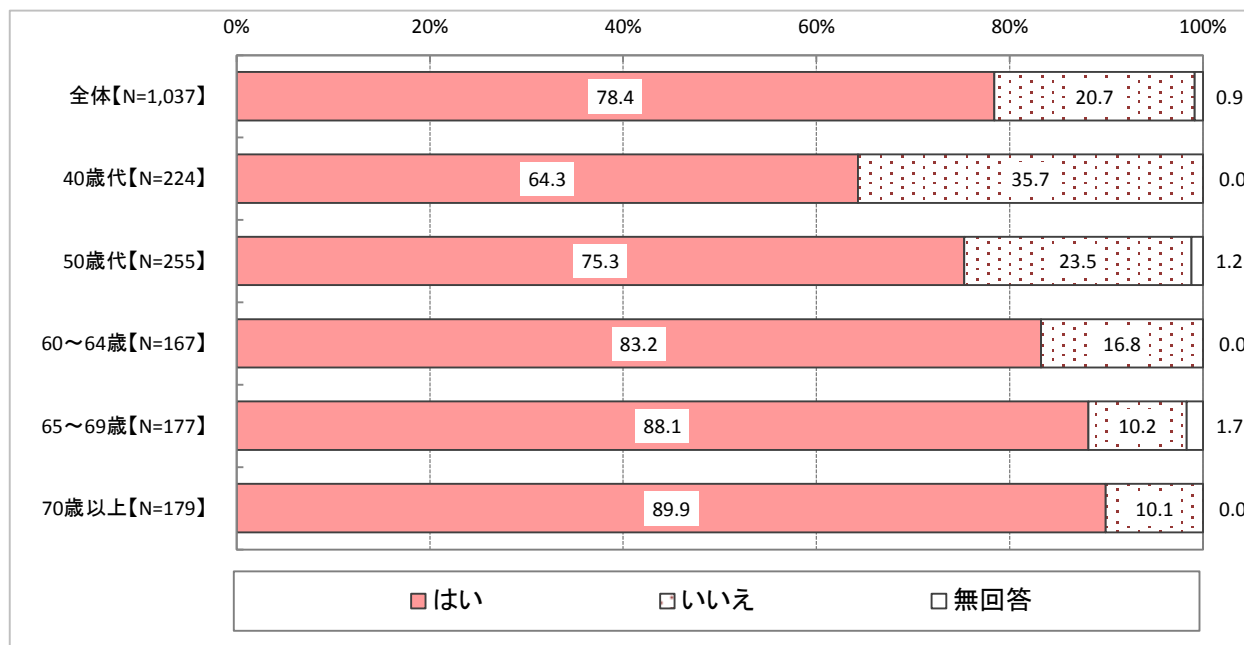
自身や家族が、現在定期的に医療機関にかかっているかについては、「はい」が78.4%、「いいえ」が20.7%となっています。

年齢別にみると、年齢が高いほど「はい」が多く、加齢に伴い医療機関への受診機会が増えていることがうかがえます。

【図 9 定期的な医療機関の受診有無】



【図 10 定期的な医療機関の受診有無／年齢別】



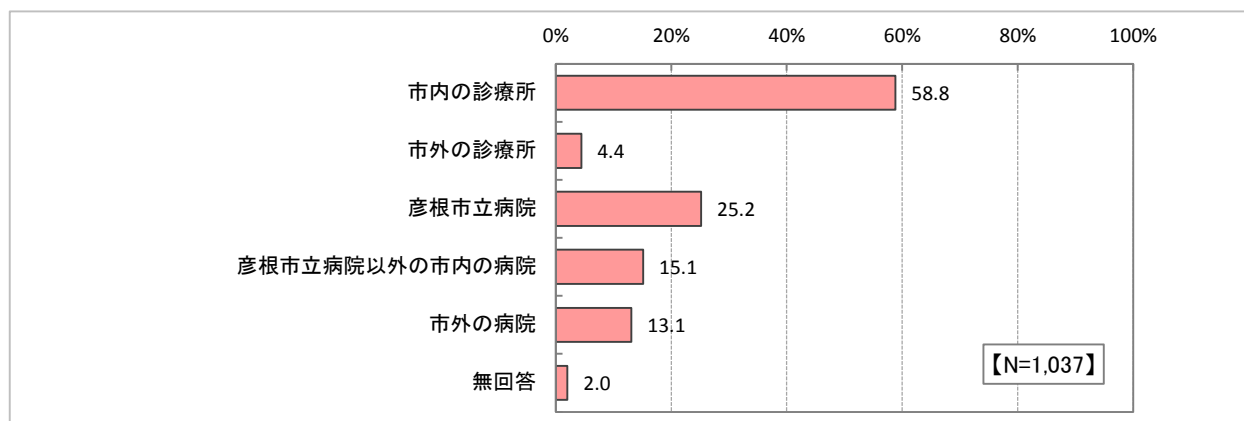
(6) 最も利用する医療機関

最も利用する医療機関は、「市内の診療所」が 58.8%と最も多く、次いで「彦根市立病院」が 25.2%となっています。

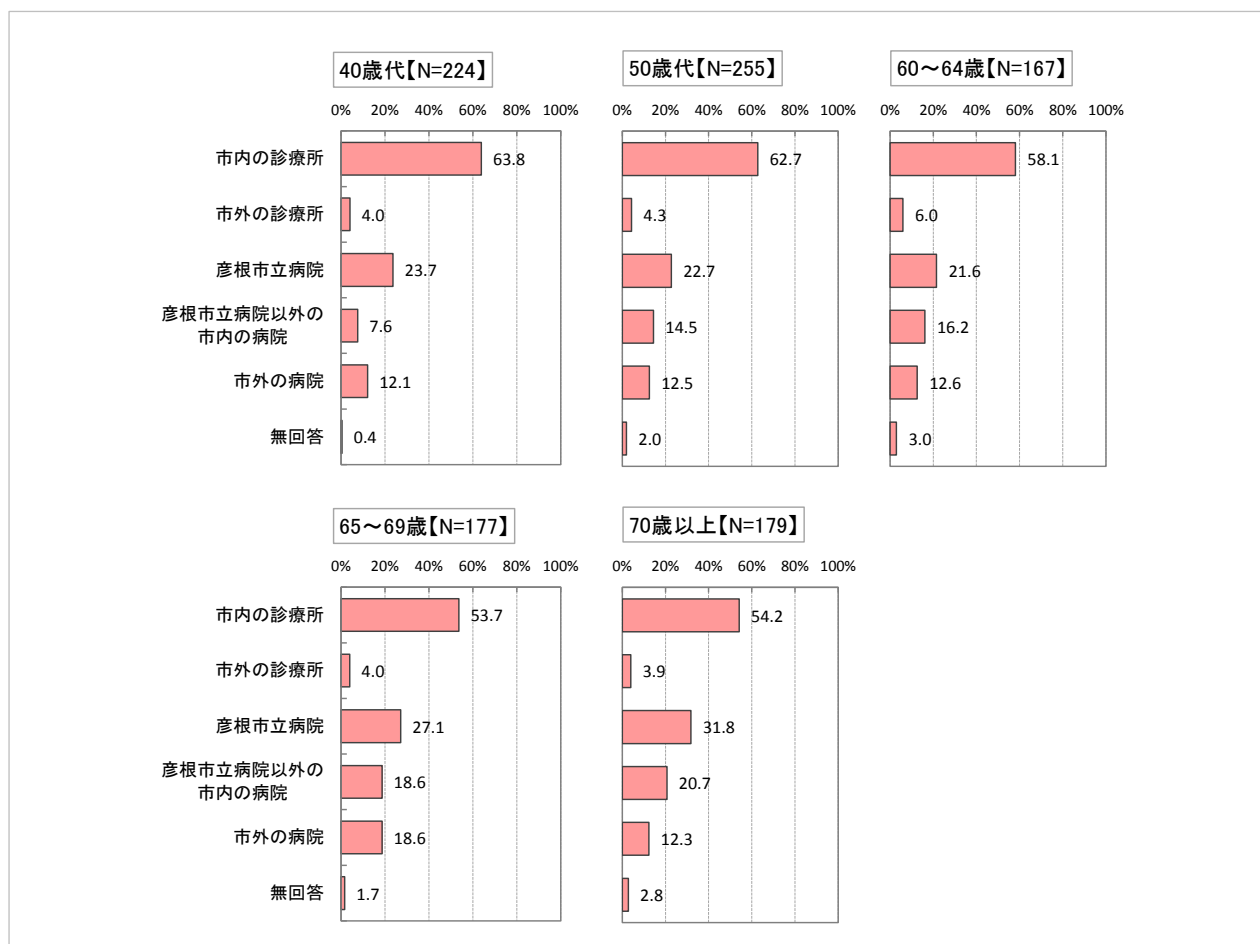
年齢別にみると、概ね年齢が低いほど「市内の診療所」が多くなっています。65 歳以降は、「彦根市立病院」が他の年齢に比べてやや多くなっています。

中学校区別にみると、回答の傾向に大きな違いはみられませんが、鳥居本中学校と稲枝中学校では「市外の病院」が他の中学校区に比べてやや多くなっています。

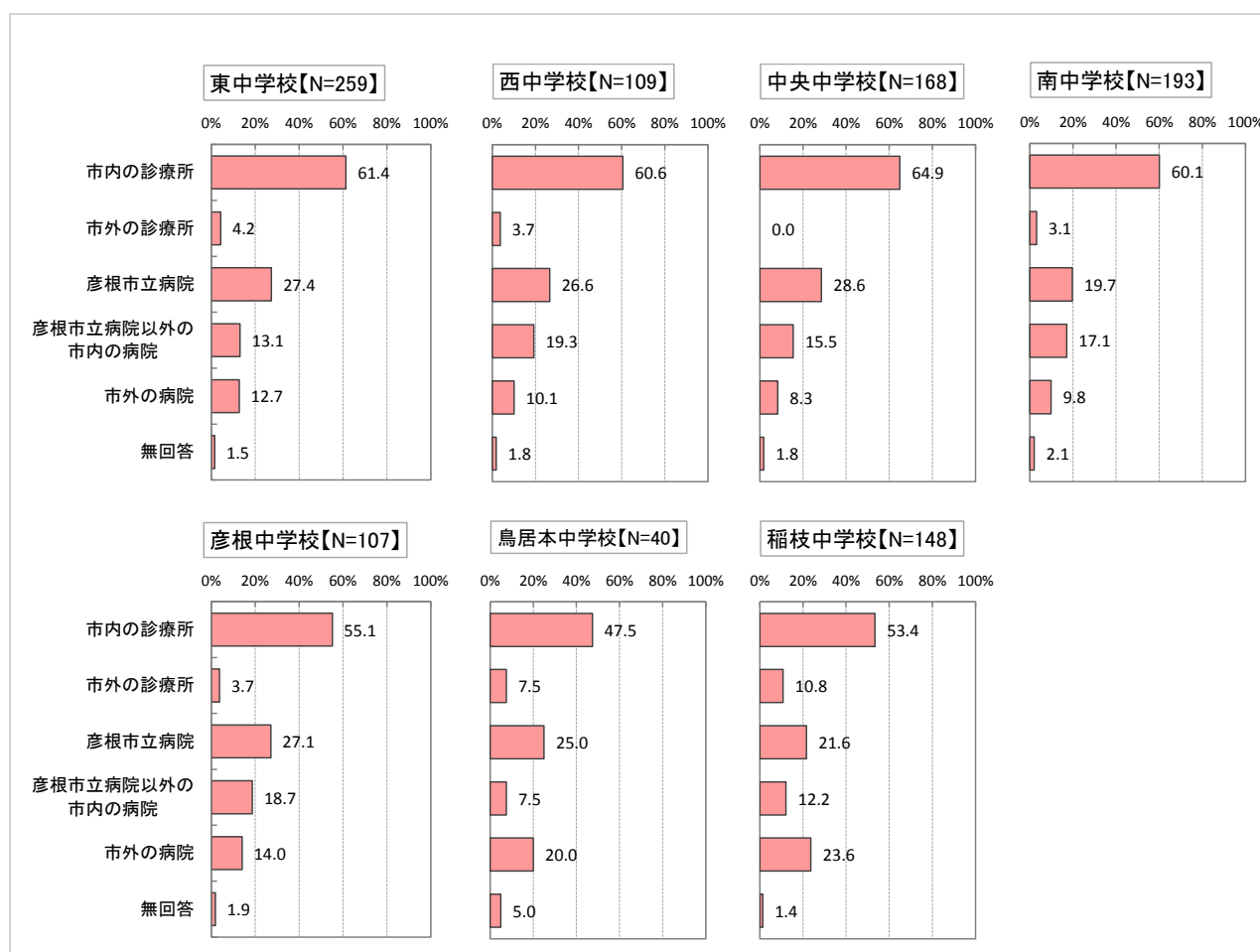
【図 11 最も利用する医療機関】複数回答



【図 12 最も利用する医療機関／年齢別】複数回答



【図 13 最も利用する医療機関／中学校区別】複数回答



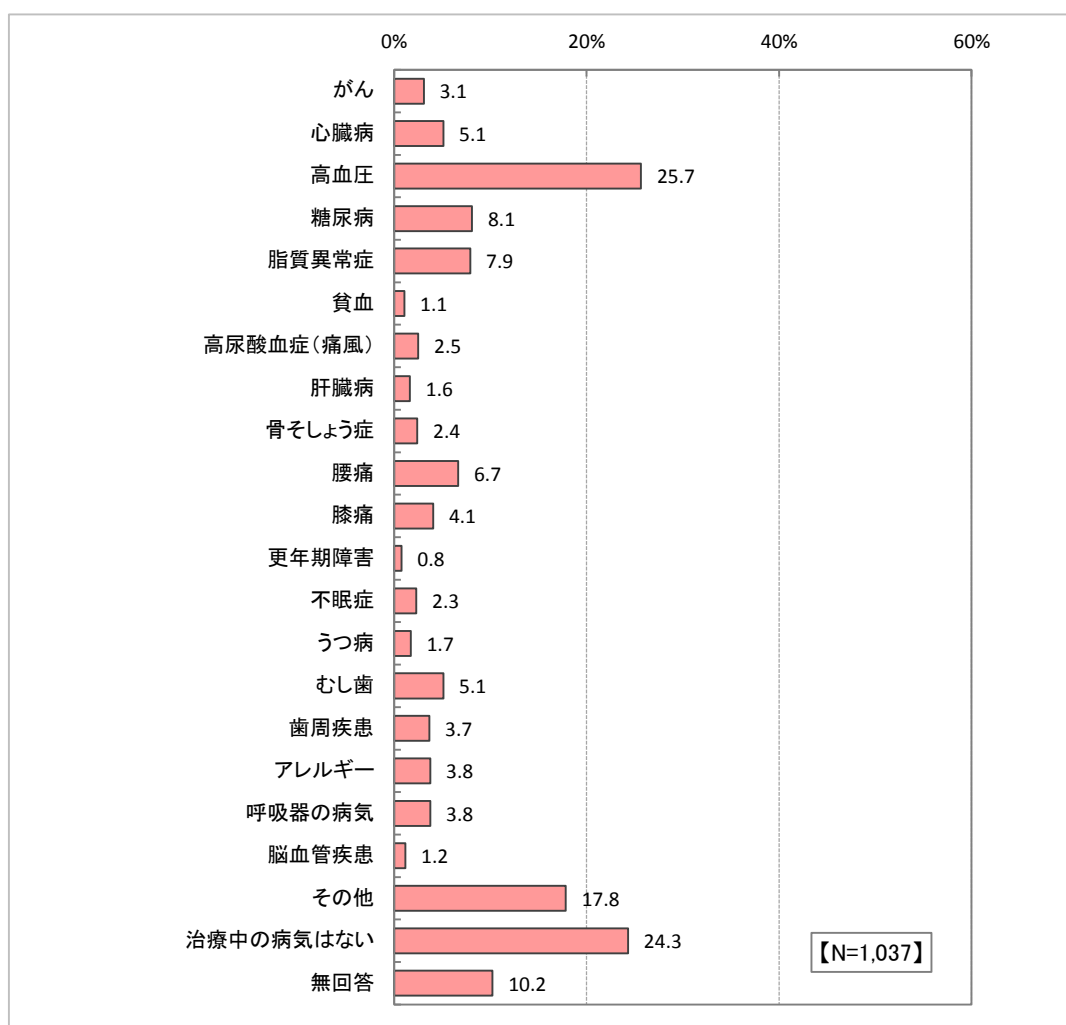
(7) 現在治療中の病気

現在治療中の病気の有無は、「治療中の病気はない」が 24.3%となっています。また、病気がある場合、「高血圧」が 25.7%と最も多く、次いで「その他」が 17.8%となっています。

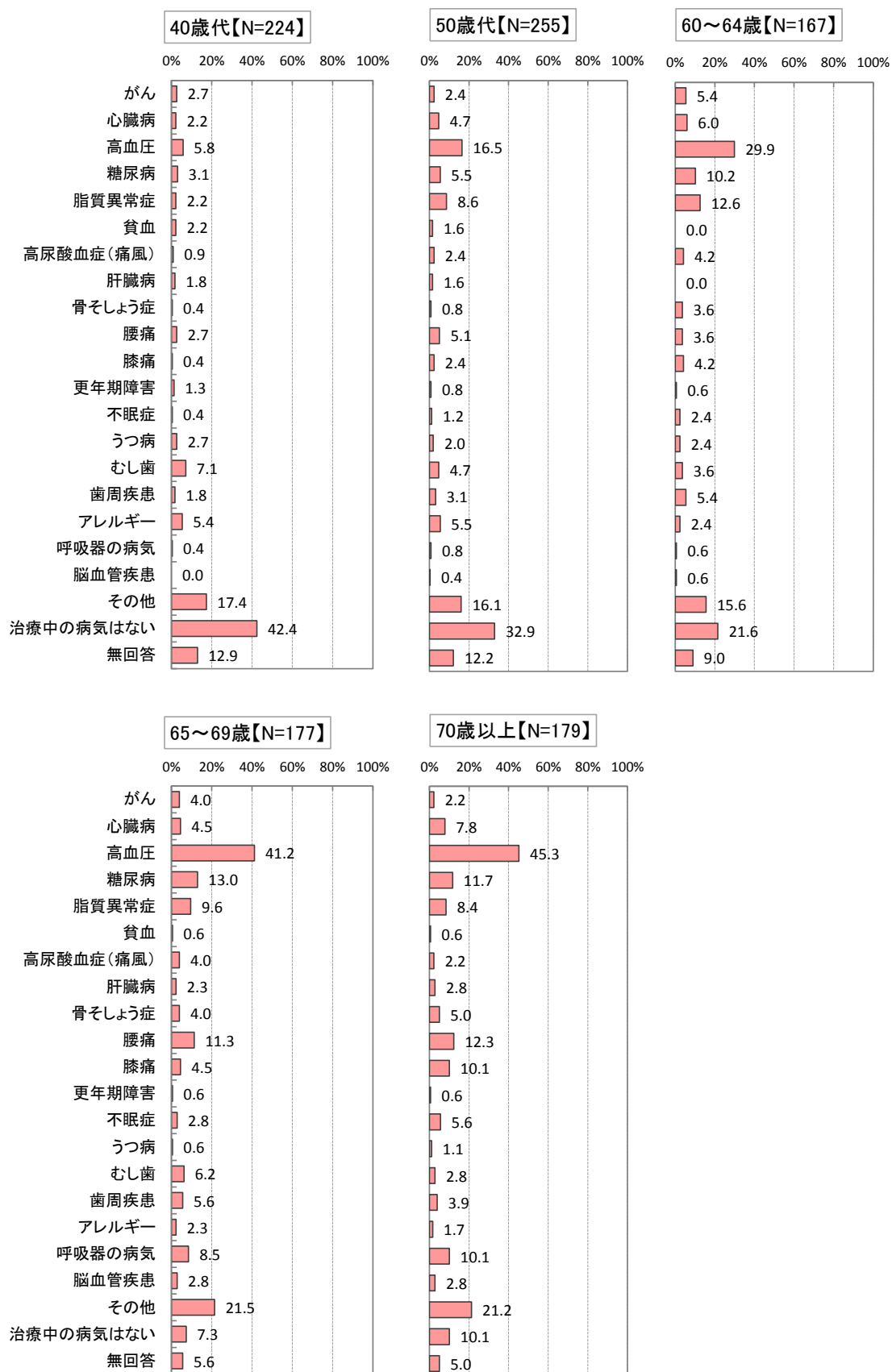
年齢別にみると、年齢が高いほど、「高血圧」が多くなっています。一方、概ね年齢が低いほど、「治療中の病気はない」が多くなっています。

中学校区別にみると、現在治療中の病気はいずれの校区でも「高血圧」が最も多くなっています。鳥居本中学校区は「糖尿病」が他の地区に比べてやや多くなっています。

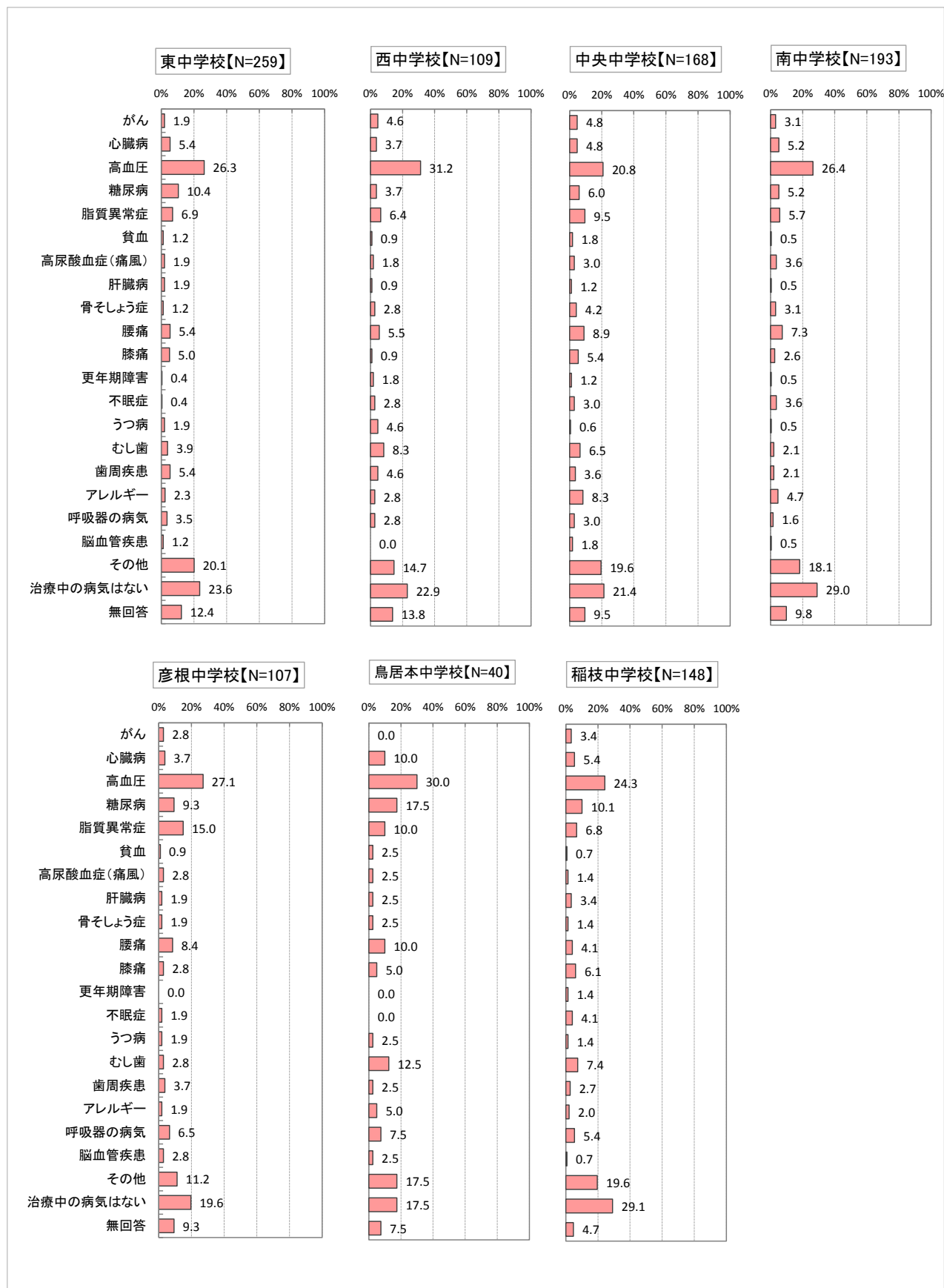
【図 14 現在治療中の病気】複数回答



【図 15 現在治療中の病気／年齢別】複数回答



【図 16 現在治療中の病気／中学校区別】複数回答



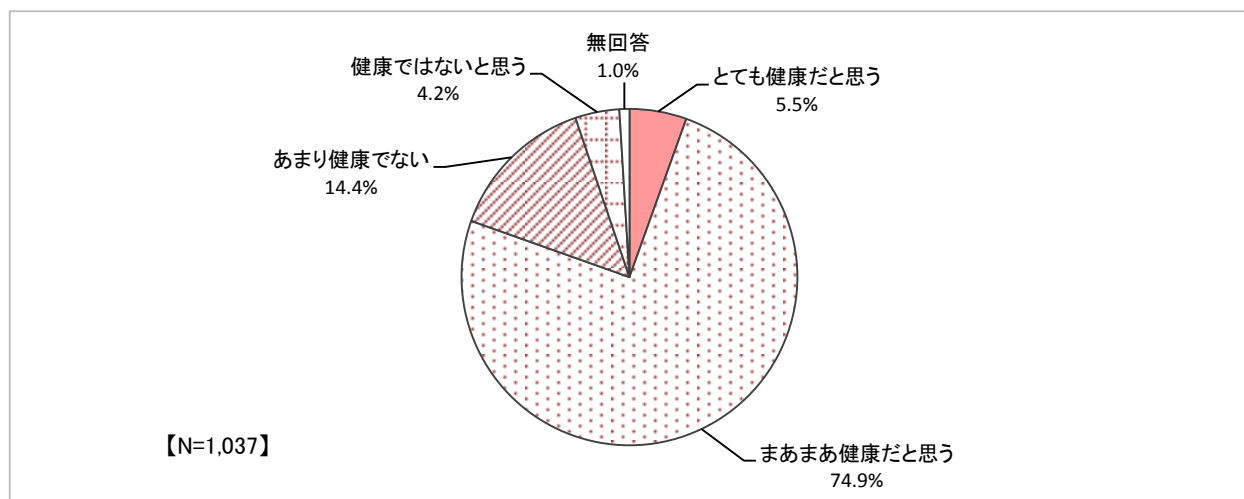
(8) 最近の健康状態

自身の最近の健康状態は、「まあまあ健康だと思う」が 74.9%と最も多く、次いで「あまり健康でない」が 14.4%となっています。

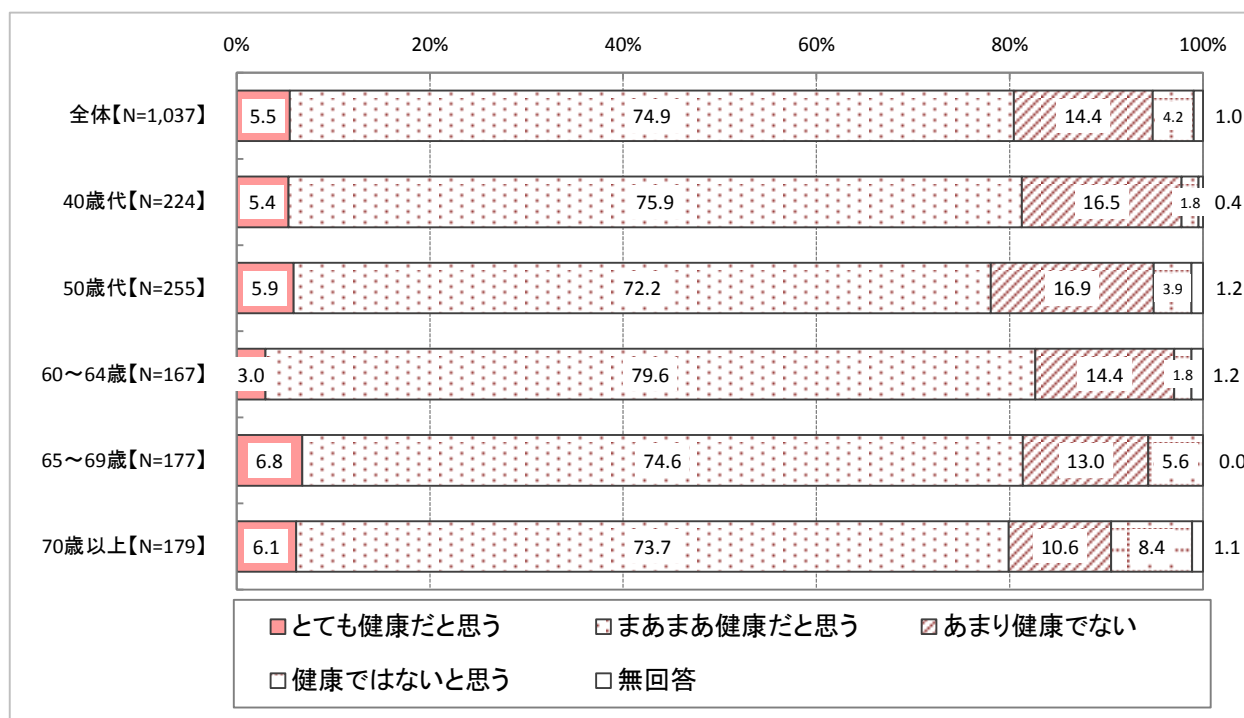
「とても健康だと思う」と「まあまあ健康だと思う」を合わせた『健康だと思う』は 80.4%で、健康と感じる人が多いことがうかがえます。

年齢別にみると、「健康でない」が 40 歳代・50 歳代において多い傾向にあります。

【図 17 最近の健康状態】



【図 18 最近の健康状態／年齢別】

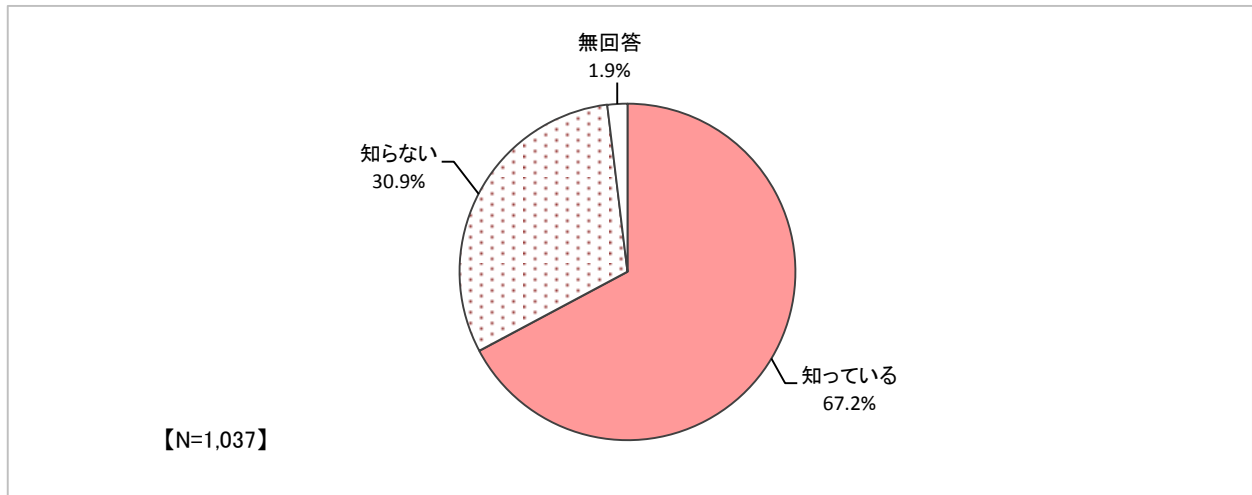


2. かかりつけ医について

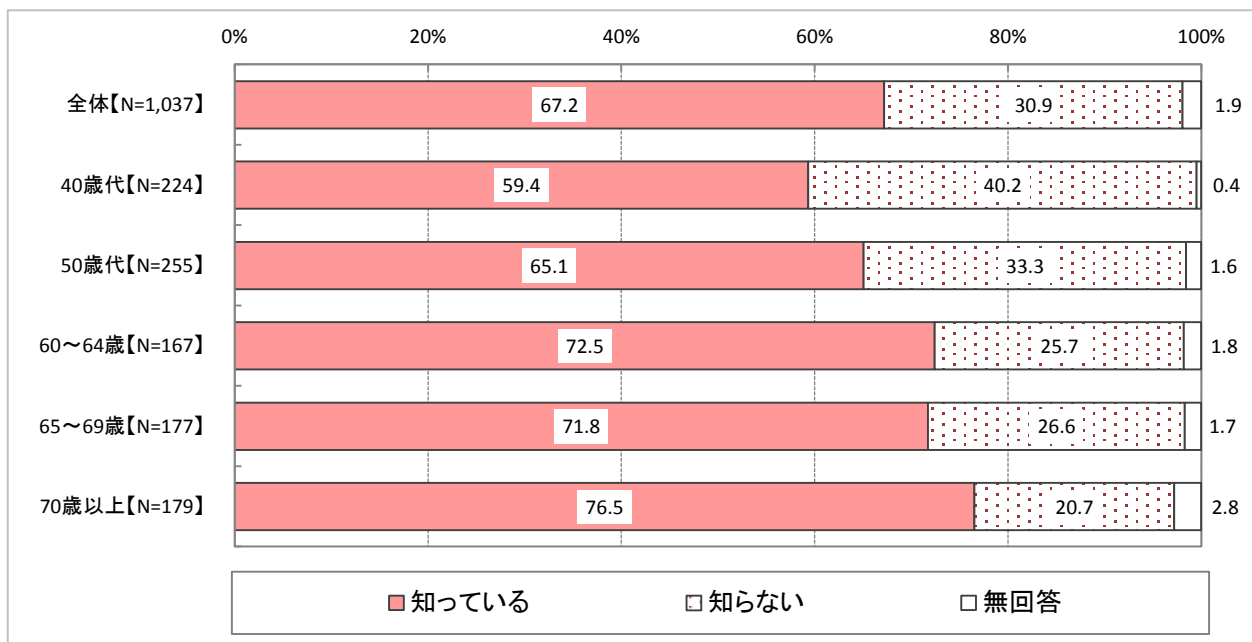
(1) 「かかりつけ医」制度の認知度

「かかりつけ医」制度の認知度は、「知っている」が67.2%、「知らない」が30.9%となっています。
年齢別にみると、概ね年齢が高いほど、「知っている」が多くなっています。
中学校区別にみると、いずれの校区でも、「知っている」は6～7割程度となっています。

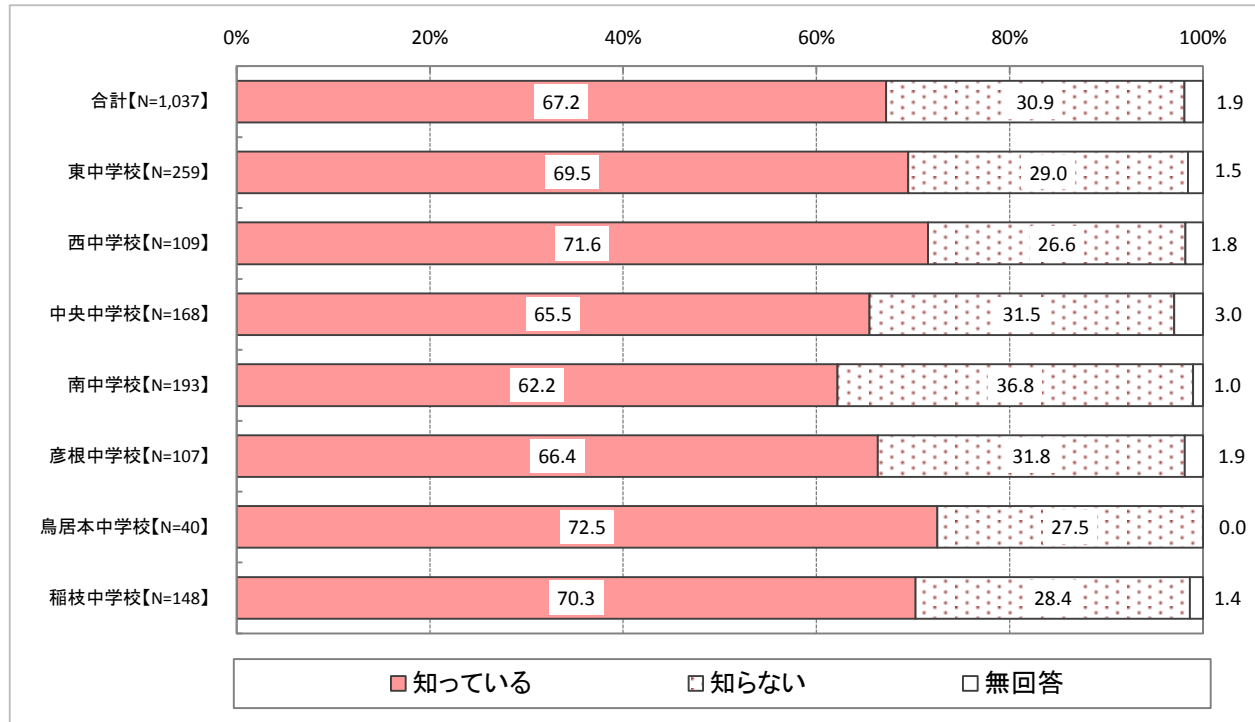
【図 19 「かかりつけ医」制度の認知度】



【図 20 「かかりつけ医」制度の認知度／年齢別】



【図 21 「かかりつけ医」制度の認知度／中学校区別】



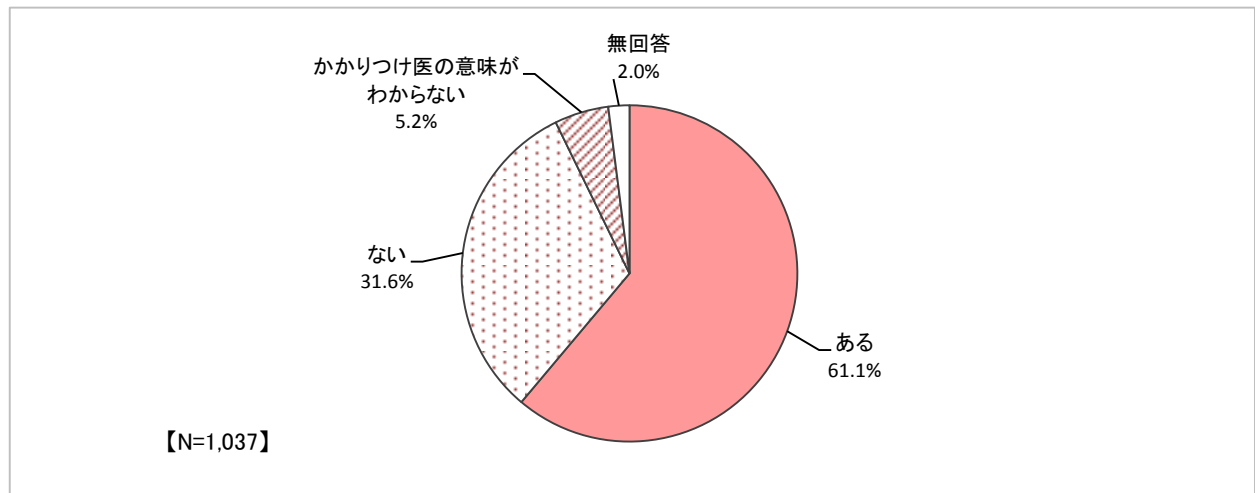
(2) 「かかりつけ医」の有無

「かかりつけ医」の有無は、「ある」が 61.1%、「ない」が 31.6%で、かかりつけ医を持つ人は 6 割程度となっています。

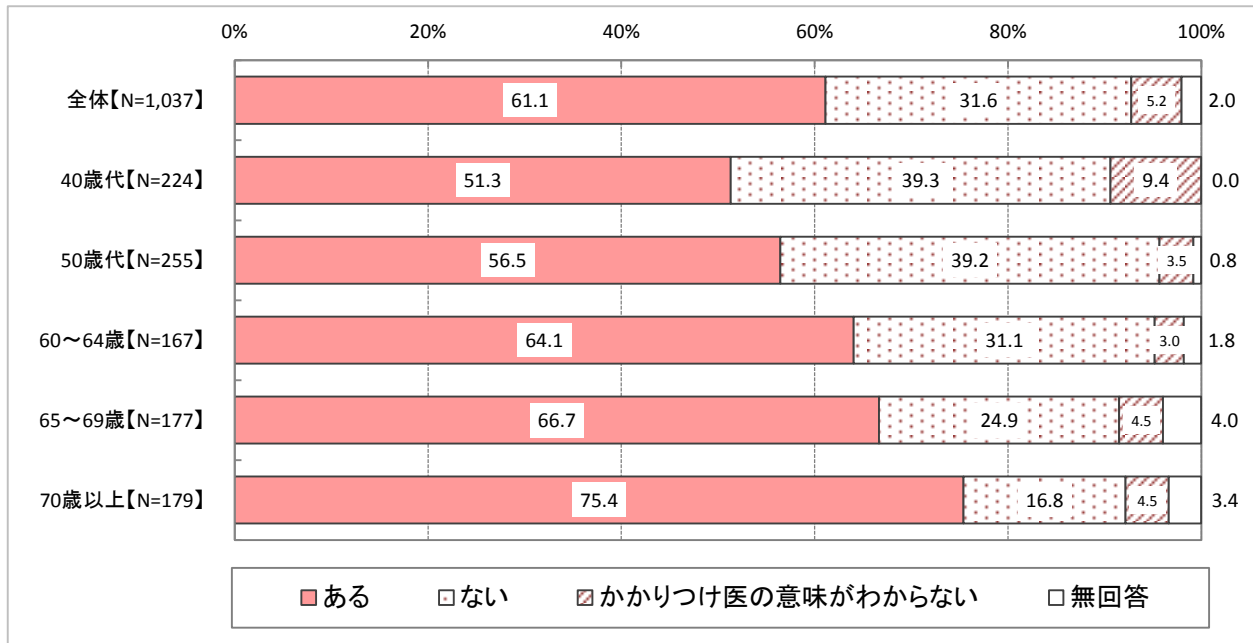
年齢別にみると、年齢が高いほど、「ある」が多くなっています。

中学校区別にみると、「ある」は鳥居本中学校で 72.5%と最も多く、南中学校で 55.4%と最も少なくなっています。

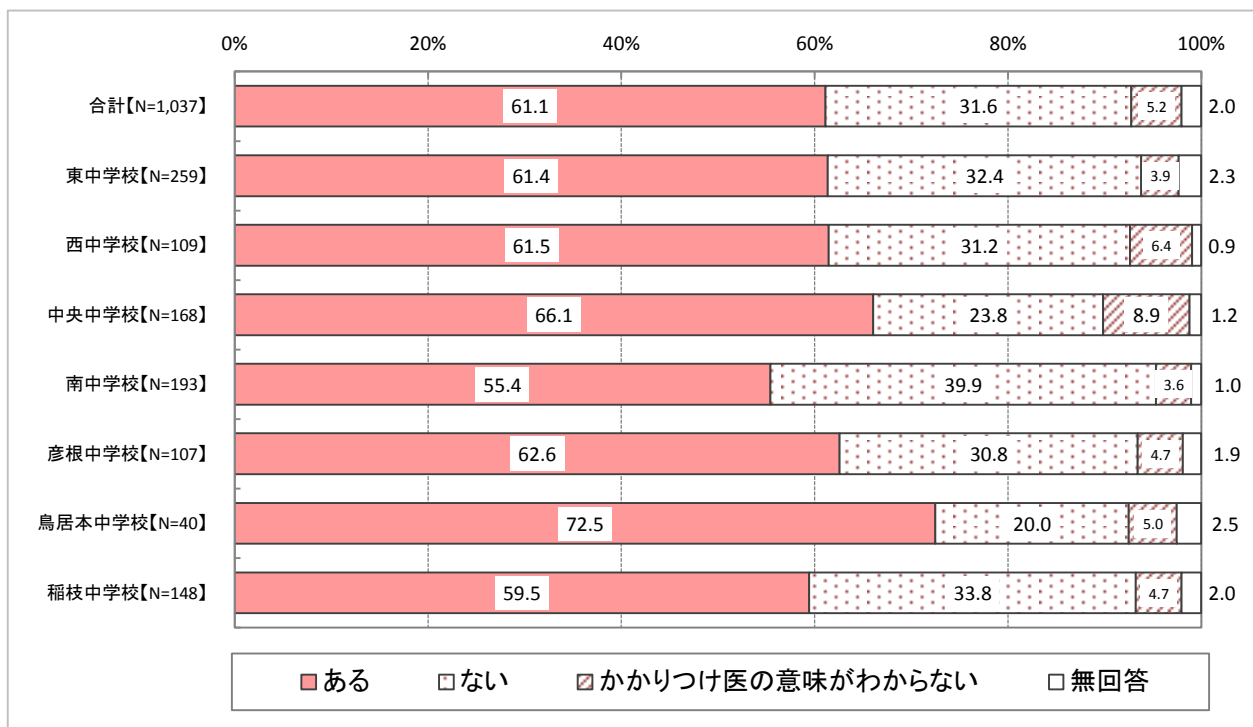
【図 22 「かかりつけ医」の有無】



【図 23 「かかりつけ医」の有無／年齢別】



【図 24 「かかりつけ医」の有無／中学校区別】



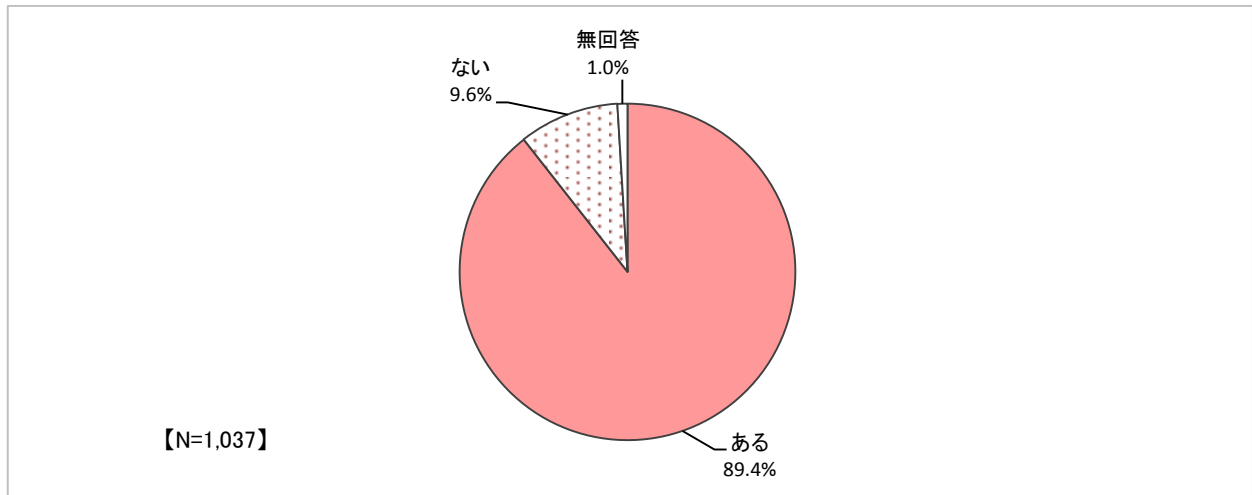
3. 診療所について

(1) 診療所の受診経験

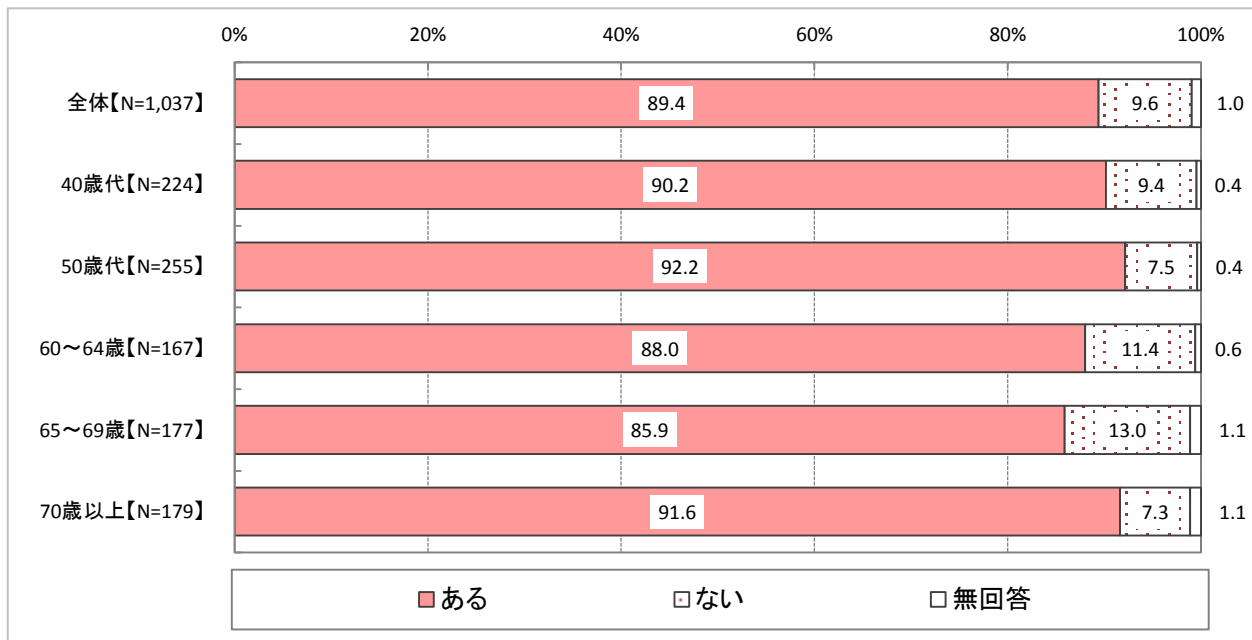
診療所の受診経験は、「ある」が 89.4%、「ない」が 9.6%で、ほとんどの人が診療所の受診経験があります。

年齢別による大きな違いはみられません。

【図 25 診療所の受診経験】



【図 26 診療所の受診経験／年齢別】



(2) 診療所の機能や役割について良いと思う点

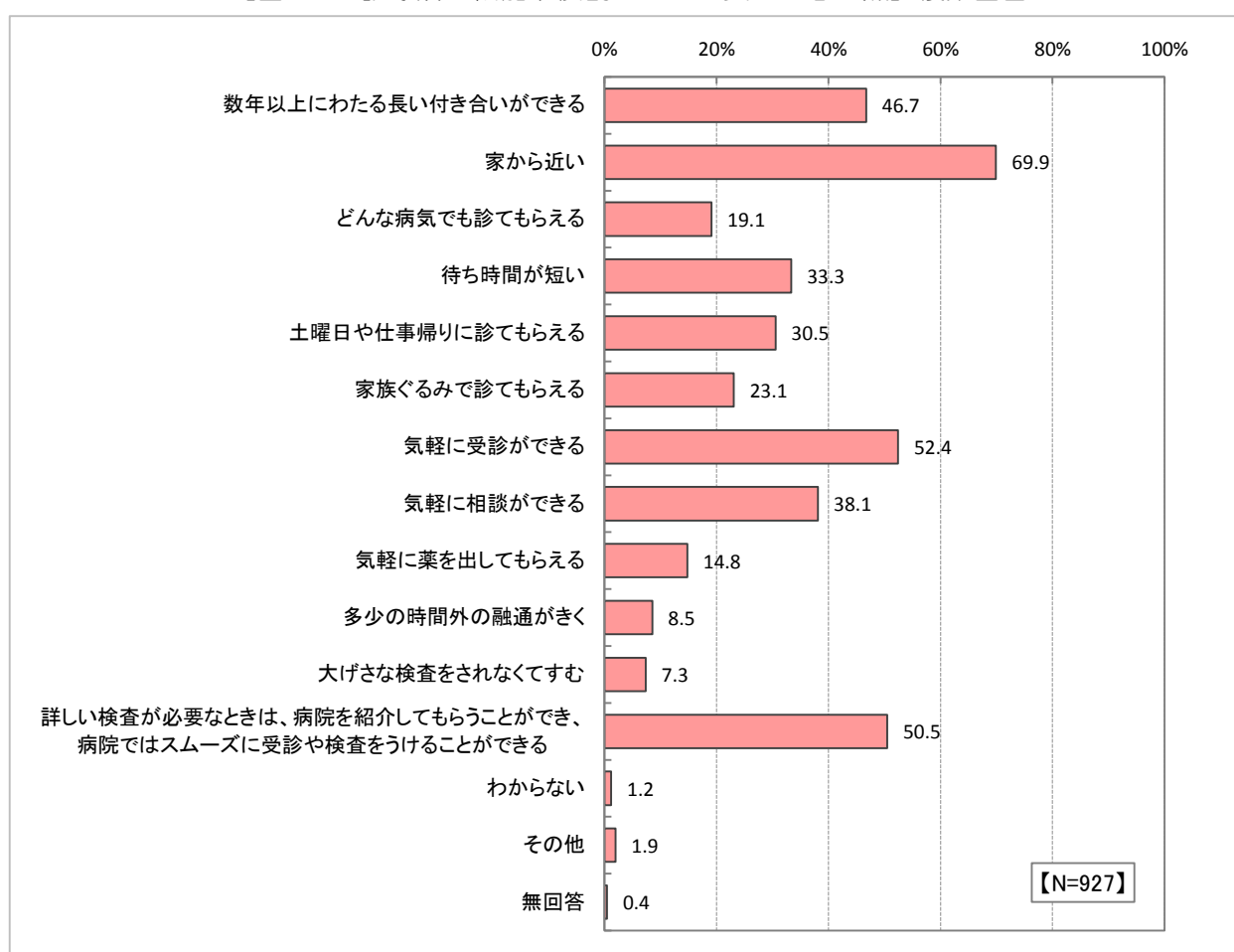
診療所を受診したことがある人に、診療所の機能や役割について良いと思う点をたずねました。

「家から近い」が69.9%と最も多く、次いで「気軽に受診できる」、「詳しい検査が必要なときは、病院を紹介してもらうことができ、病院ではスムーズに受診や検査を受けることができる」、「数年以上にわたる長い付き合いができる」が多くなっています。

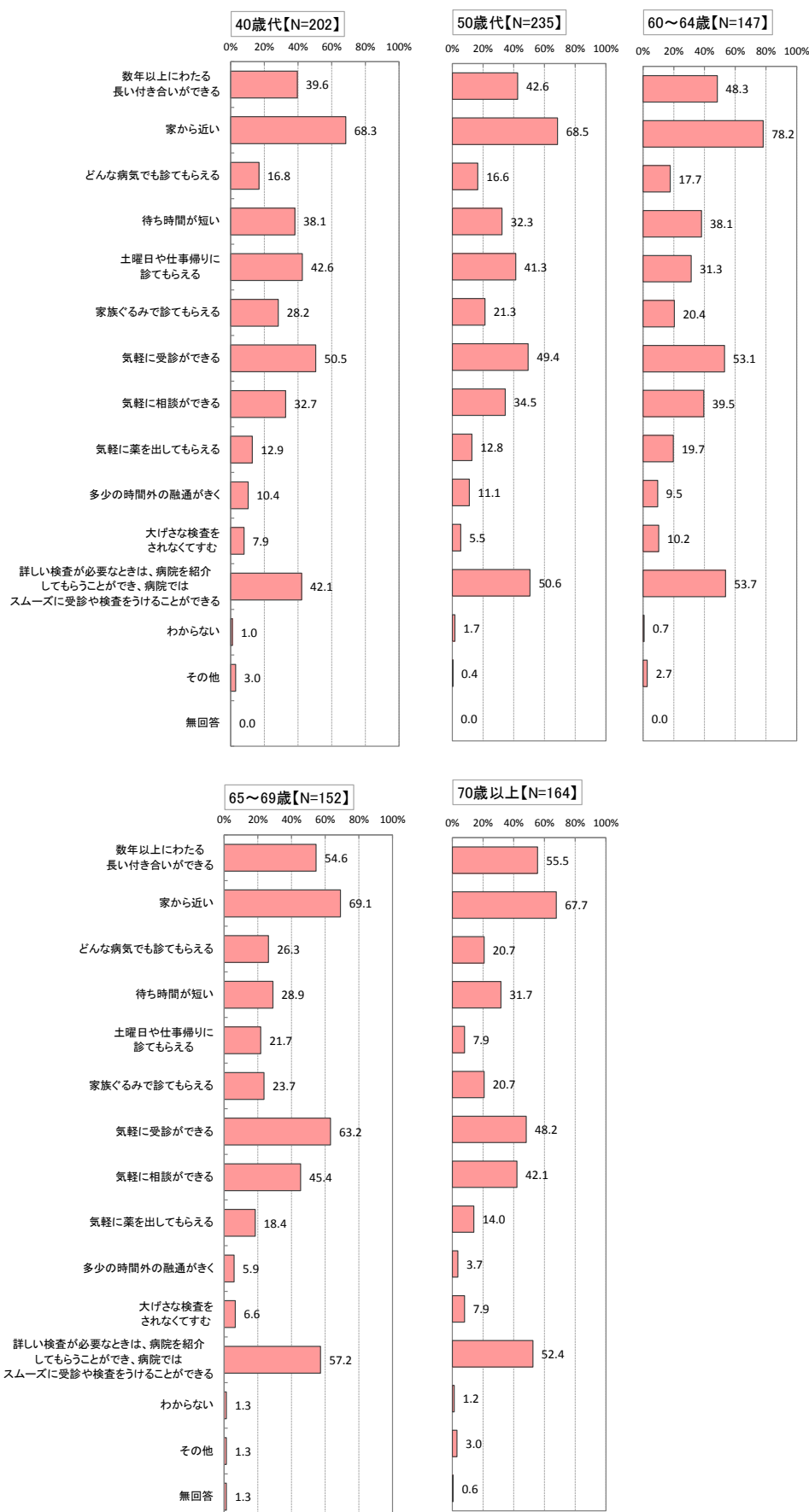
約半数の人は、身近な地域で医療を受けられることが診療所の良い点だと、考えていることがうかがえます。

年齢別にみると、概ね年齢が高いほど、「数年以上にわたる長い付き合いができる」と「気軽に相談できる」が多くなっています。一方、40歳代・50歳代で「土曜日や仕事帰りに診てもらえる」が多くなっています。

【図 27 診療所の機能や役割について良いと思う点】複数回答



【図 28 診療所の機能や役割について良いと思う点／年齢別】複数回答

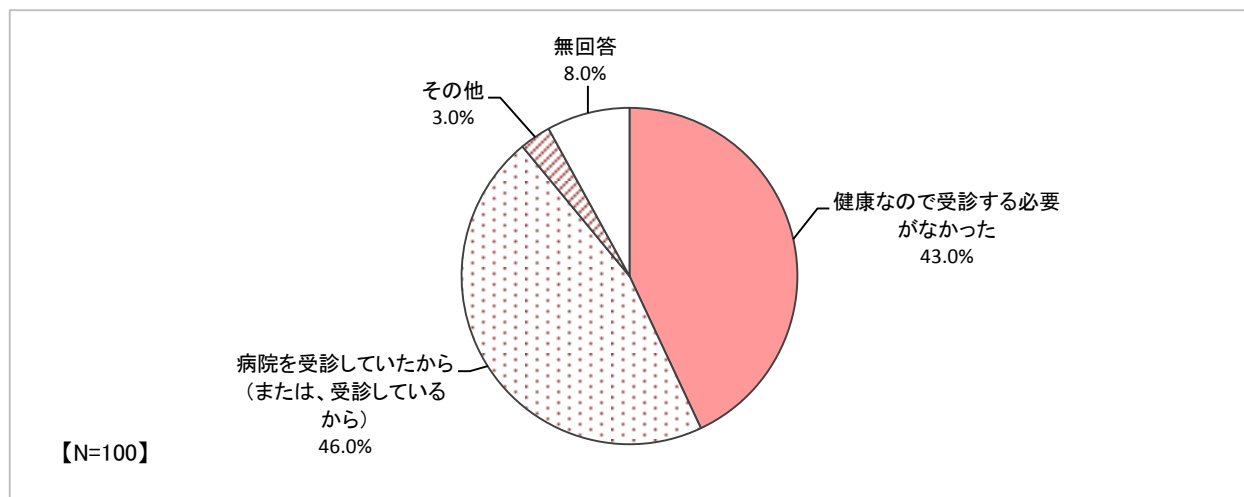


(3) 診療所を受診したことがない理由

診療所を受診したことがない人に、その理由をたずねました。

約半数の 46.0%が「病院を受診していたから（または、受診しているから）」と回答しています。

【図 29 診療所を受診したことがない理由】



(4) 診療所ではなく病院を受診した理由

病院を受診していた（またはしている）ため診療所を受診したことがない人に、診療所ではなく病院を受診した理由を、自由記載の方式で回答を求めた結果は以下のようになっています。

安心、診療科目が多いといった意見が多く見られます。

- 安心のため
- 診療所で受診することがない
- 急性心筋梗塞を会社勤務中発症。そのまま入院、手術をしたため。
- 病院は診療所より多くの医者がいるので安心と思っている
- 開業医より施設があるから、他の科も受診できる。
- 急に血圧上昇のため
- 自宅から近くに有る成人検診からのつながり
- 入院がしやすいから
- 近くにあるから
- 近いから、安心だから
- 専門の医者がおられるから
- 昔から（40年位）受診しているので
- かかりつけで信用出来る。なんでも気楽に話せる。親切。
- 救急で受診したことがあるので
- 大きい病院の方が安心感があるので
- 安心だから、病院の方が

- 急性脳炎で救急車で市立病院、それからずっと市立病院
- 総合病院で安心だから
- ・処置が早い　・その日内に結果が出る　・適切に判断してもらえる
- 大きくて安心出来るから。
- 平成 14 年に脳出血で入院（市立病院）して以来、市立病院ばかりになっている。
- 良い医者がいると思うから
- 精神病
- 診療所で受診していても病気によっては病院へ行かなくてはならない。
- 大きな病院の方が病気が発見された時詳しい検査をしてもらうのがスムーズだから。
- 大きい病院の方が専門医がいるし、検査もすぐしてもらえるから。
- がん検診でその病院で、くわしく検査が出来ないと言われたので市立病院を紹介していただいたのがきっかけです。外科の先生から内科の先生を紹介していただきました。
- 専門医に診て貰える事と複数の科が有るので安心感がある。
- 診療科目が多い
- 車いすのため
- 病院だと安心できるから。（診療所の状況をあまり詳しく知らない）
- 診療科が病院にしかないのです。
- 大きい病院だと、いろいろな病気があった時に、すぐに何々科へいける。
- 健康診断で血圧が高かったなのでその時豊郷病院で受診して、それ以外診てもらっている。
- 開業医廃止の為健康診断で紹介状をもらう
- 家が近い所に病院があるから
- 人間ドックを受けてから、手術をしたから。

4. 彦根市立病院について

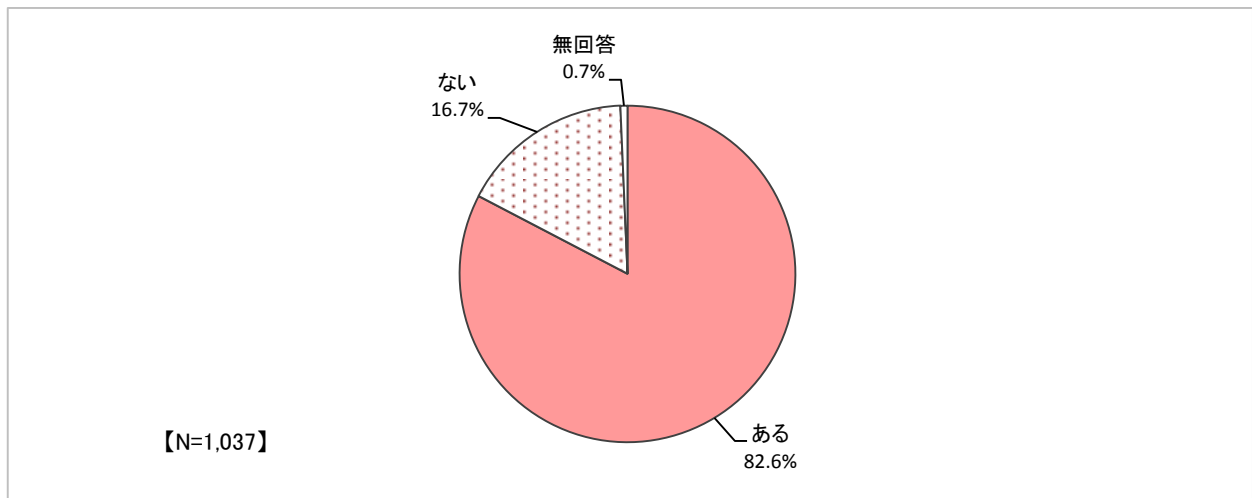
(1) 彦根市立病院の受診経験

彦根市立病院の受診経験は、「ある」が 82.6%、「ない」が 16.7%で、約 8 割の人に受診経験があります。

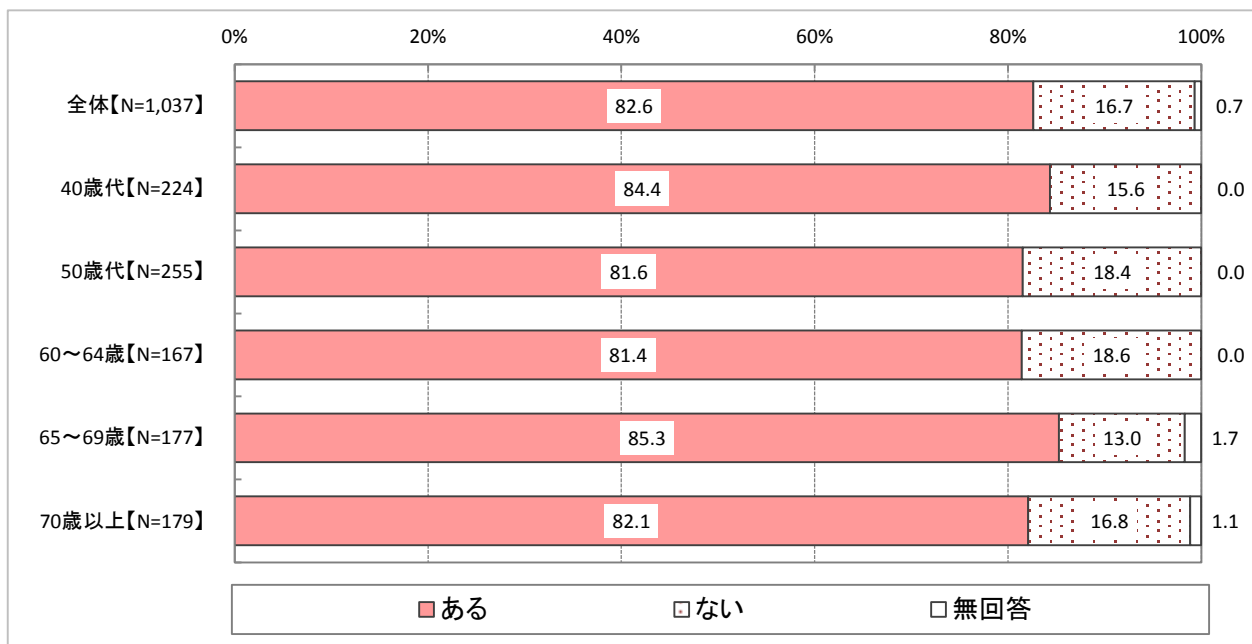
年齢別による大きな違いはみられません。

中学校区別にみると、「ある」は、彦根市立病院に最も近い中央中学校で 89.3%と最も多く、彦根市立病院から比較的遠い距離にある鳥居本中学校で 75.0%と最も少なくなっています。

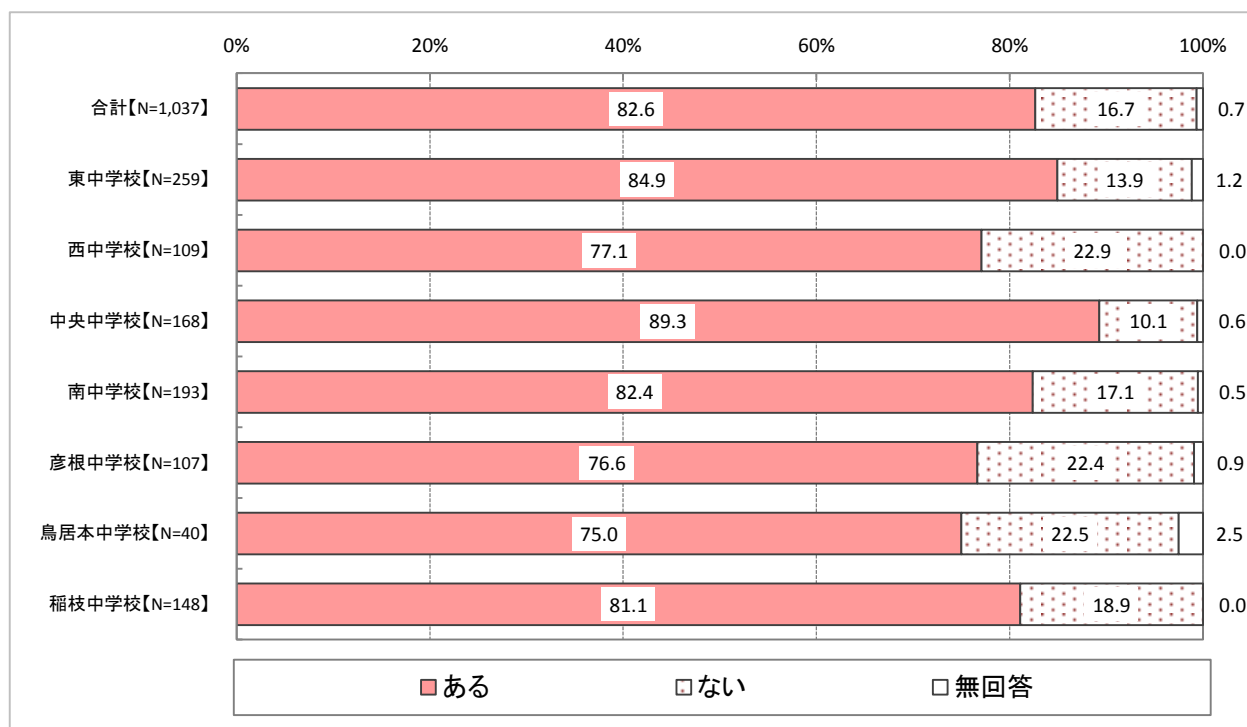
【図 30 彦根市立病院の受診経験】



【図 31 彦根市立病院の受診経験／年齢別】



【図 32 彦根市立病院の受診経験／中学校区別】



(2) 彦根市立病院の良い点

彦根市立病院の受診経験がある人に、彦根市立病院の良い点をたずねました。

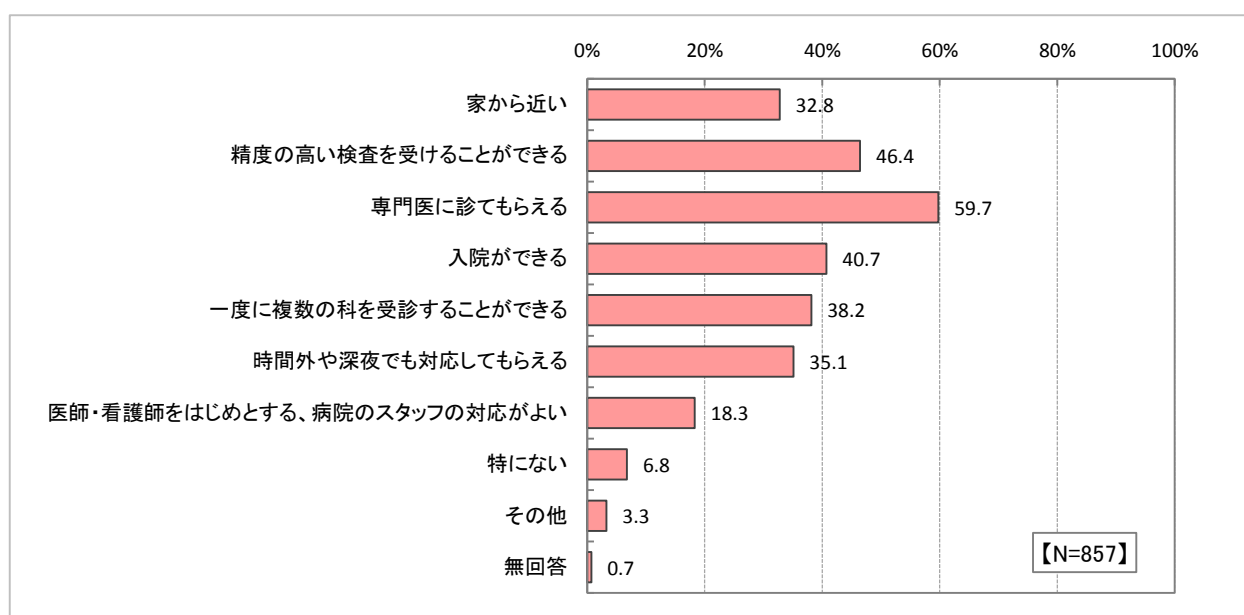
「専門医に診てもらえる」が 59.7%と最も多く、次いで「精度の高い検査を受けることができる」が 46.4%、「入院ができる」が 40.7%となっています。

専門性や検査の精度の高さが評価されている結果となっています。

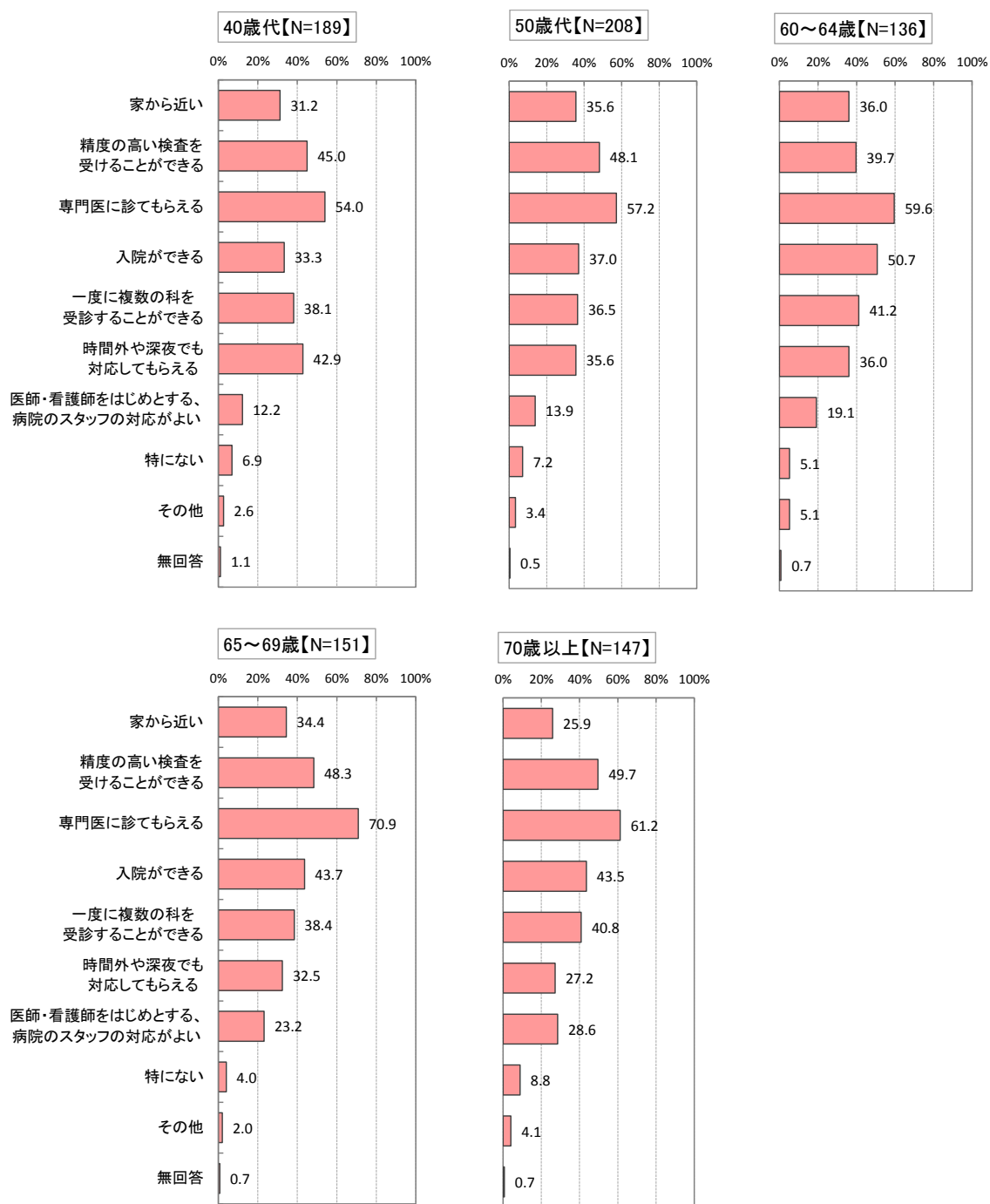
年齢別にみると、回答の傾向に大きな違いはみられませんが、おおむね年齢が高いほど「専門医に診てもらえる」と「医師・看護師をはじめとする、病院のスタッフの対応がよい」が多く、一方、年齢が低いほど「時間外や深夜でも対応してもらえる」が多くなっています。

中学校区別にみると、中央中学校と南中学校では「家から近い」が多くなっています。

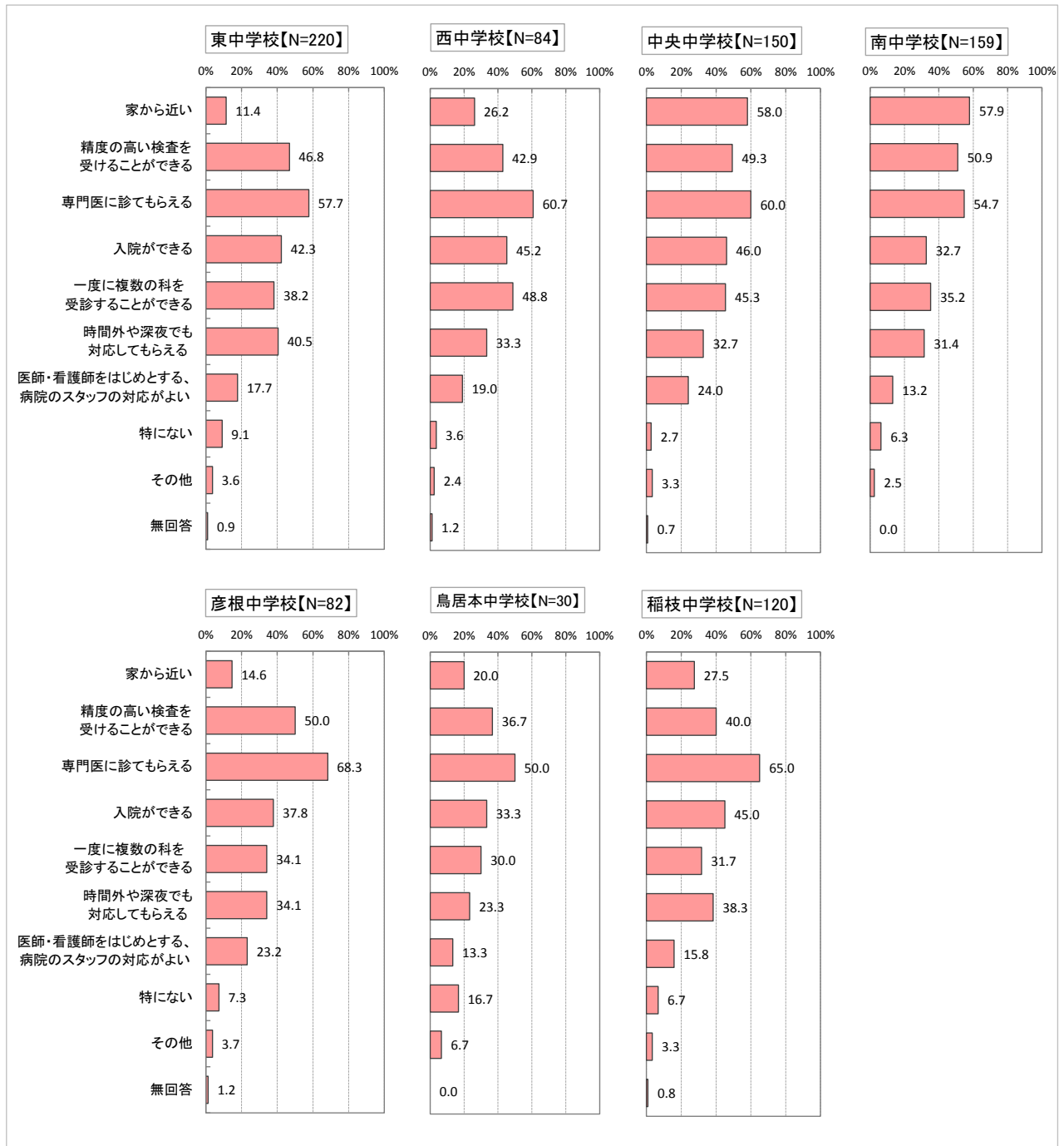
【図 33 彦根市立病院の良い点】複数回答



【図 34 彦根市立病院の良い点／年齢別】複数回答



【図 35 彦根市立病院の良い点／中学校区別】複数回答



(3) 彦根市立病院の良くない点

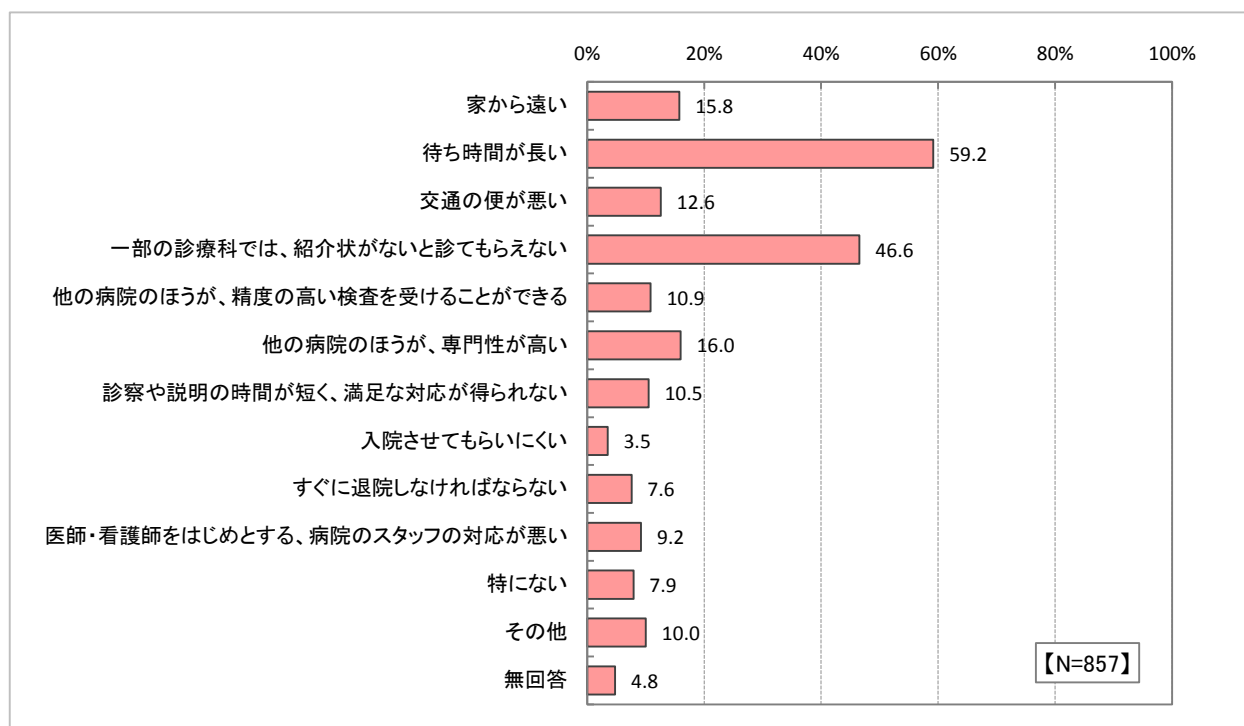
彦根市立病院の受診経験がある人に、彦根市立病院の良くない点をたずねました。

「待ち時間が長い」が 59.2%と最も多く、次いで「一部の診療科では、紹介状がないと診てもらえない」が 46.6%となっています。

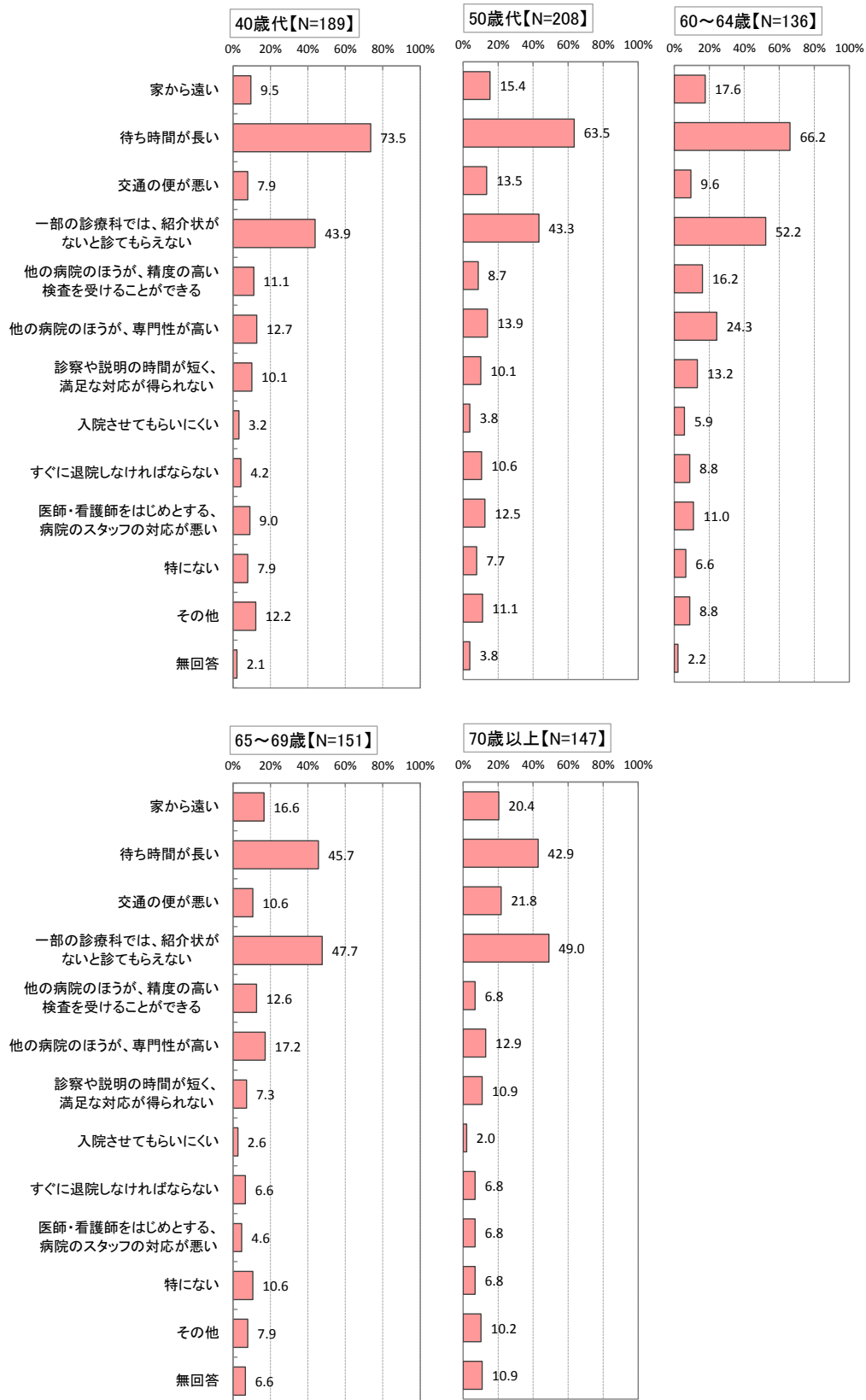
年齢別にみると、概ね年齢が低いほど、「待ち時間が長い」が多くなっています。60代では「他の病院のほうが、専門性が高い」が多い傾向にあります。

中学校別にみると、東中学校区と鳥居本中学校区では「家から遠い」が多くなっています。鳥居本中学校区では「他の病院のほうが、専門性が高い」が多くなっています。

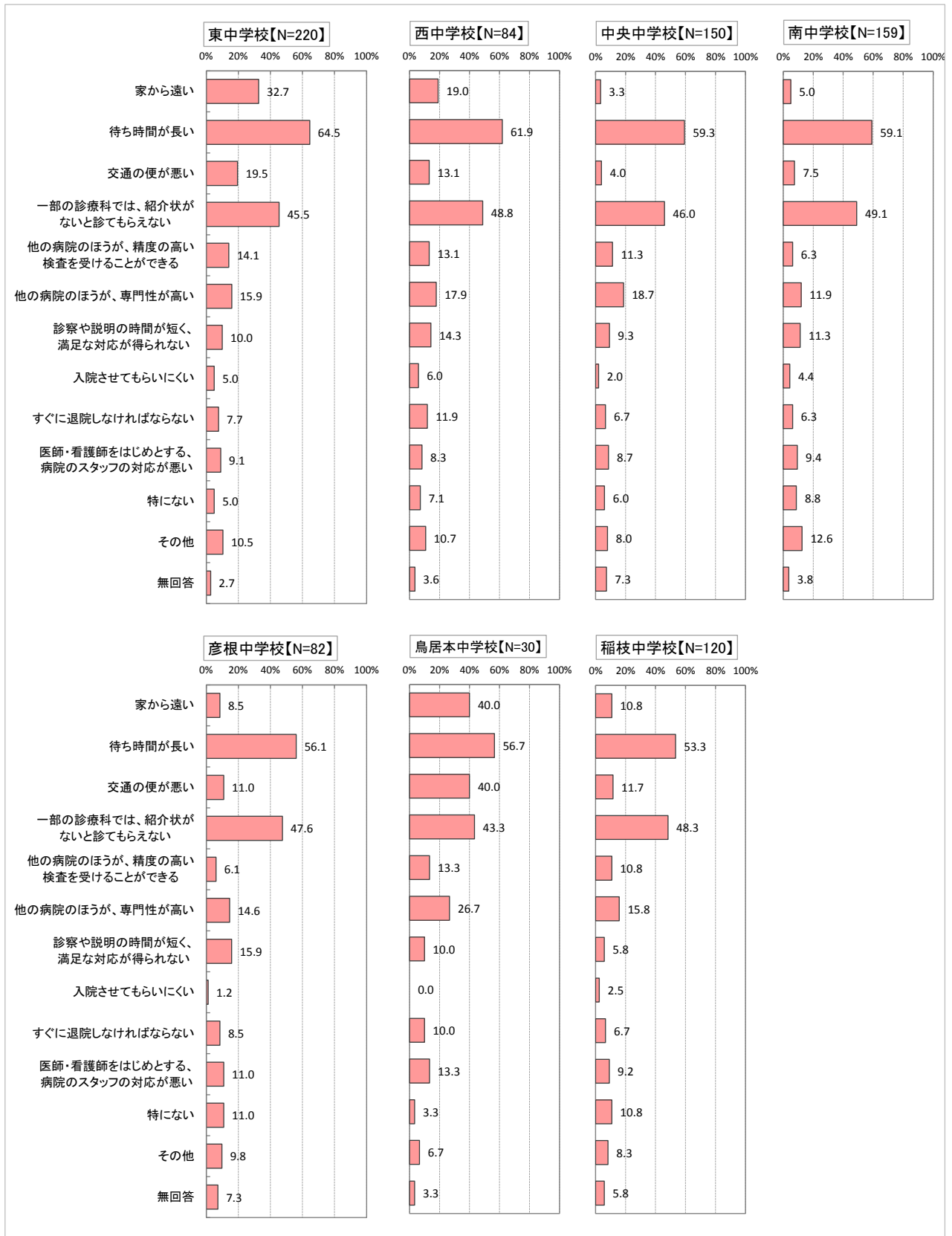
【図 36 彦根市立病院の良くない点】複数回答



【図 37 彦根市立病院の良くない点／年齢別】複数回答



【図 38 彦根市立病院の良くない点／中学校区別】複数回答



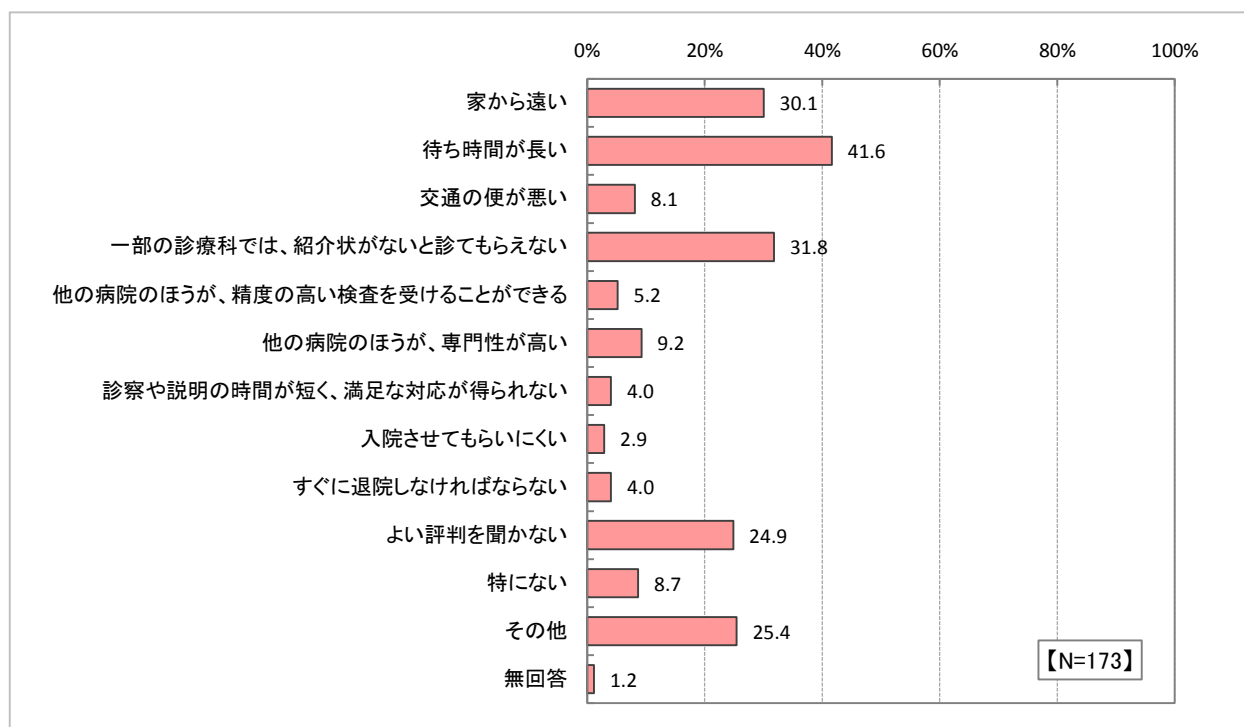
(4) 彦根市立病院を受診しない理由

彦根市立病院の受診経験がない人に、彦根市立病院を受診しない理由をたずねました。

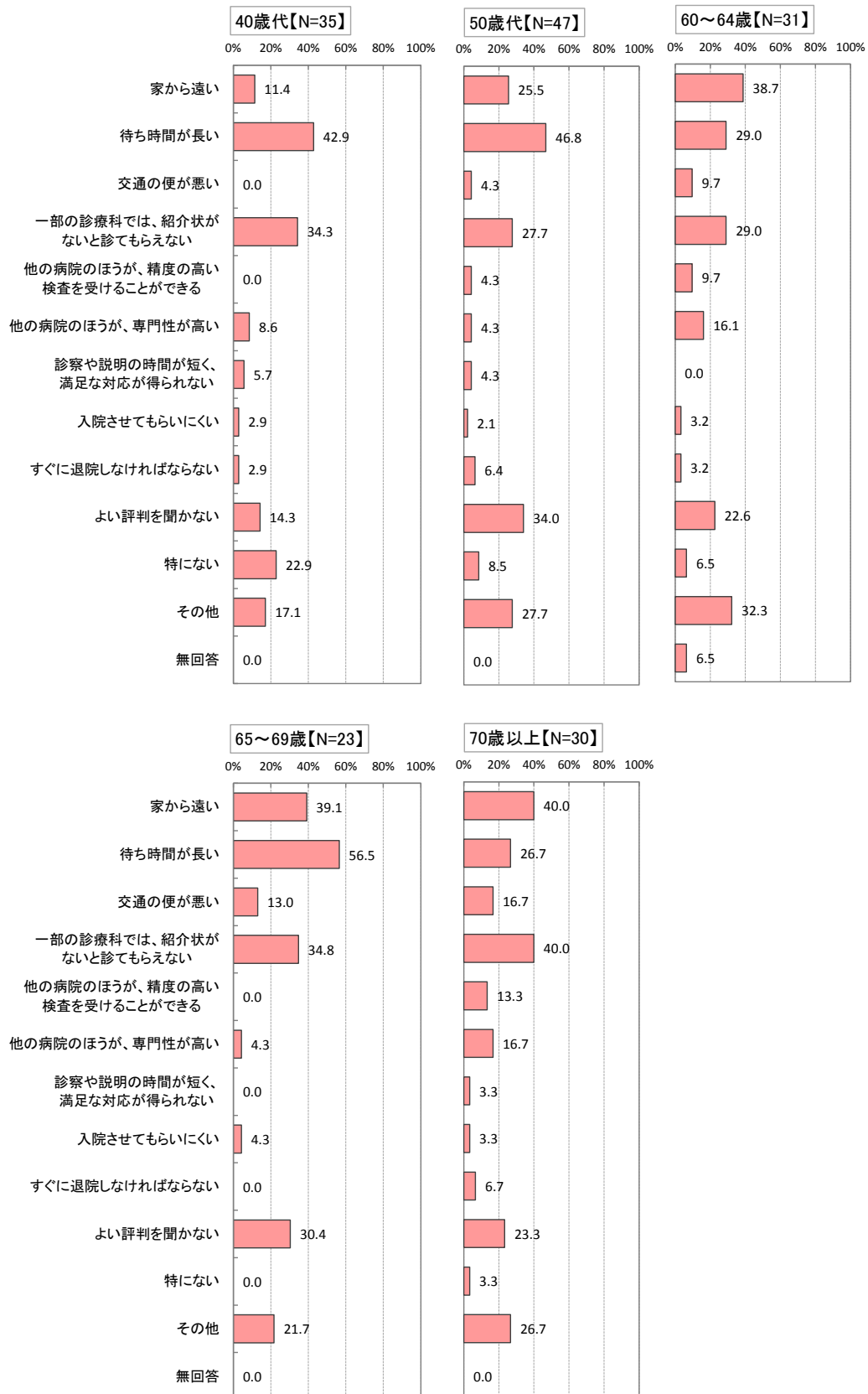
「待ち時間が長い」が41.6%と最も多く、次いで「一部の診療科では、紹介状がないと診てもらえない」が31.8%、「家から遠い」が30.1%となっています。

年齢別にみると、60歳以降から「家から遠い」が多くなっています。

【図 39 彦根市立病院を受診しない理由】複数回答



【図 40 彦根市立病院を受診しない理由／年齢別】複数回答

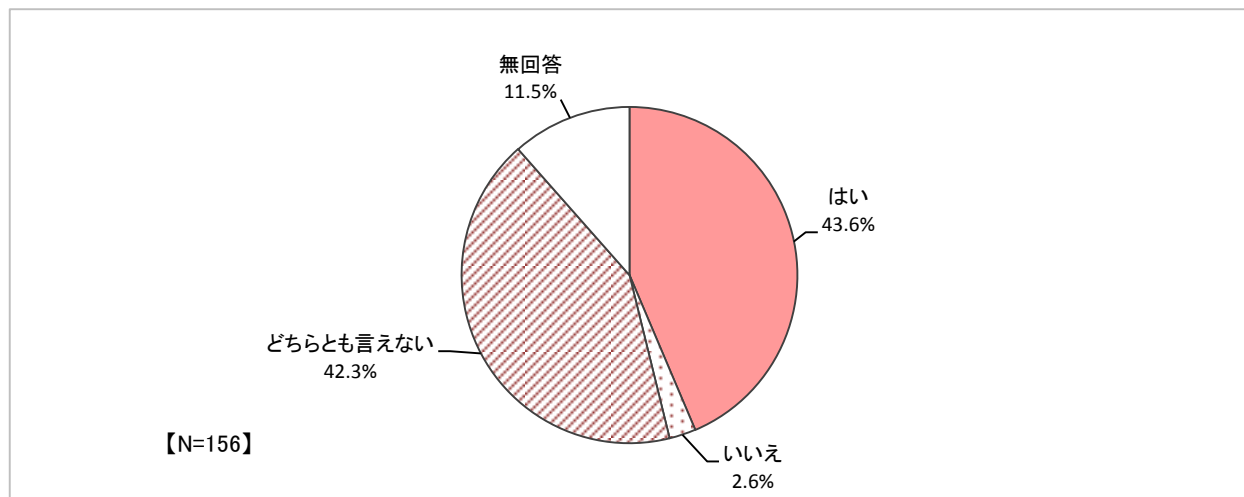


(5) 受診しない理由が改善された後の、彦根市立病院への受診希望

彦根市立病院を受診しない理由で「特になし」以外を回答した人に、その理由が改善されたら彦根市立病院を受診するかどうかたずねました。

「はい」は 43.6%となっています。

【図 41 受診しない理由が改善された後の、彦根市立病院への受診希望】



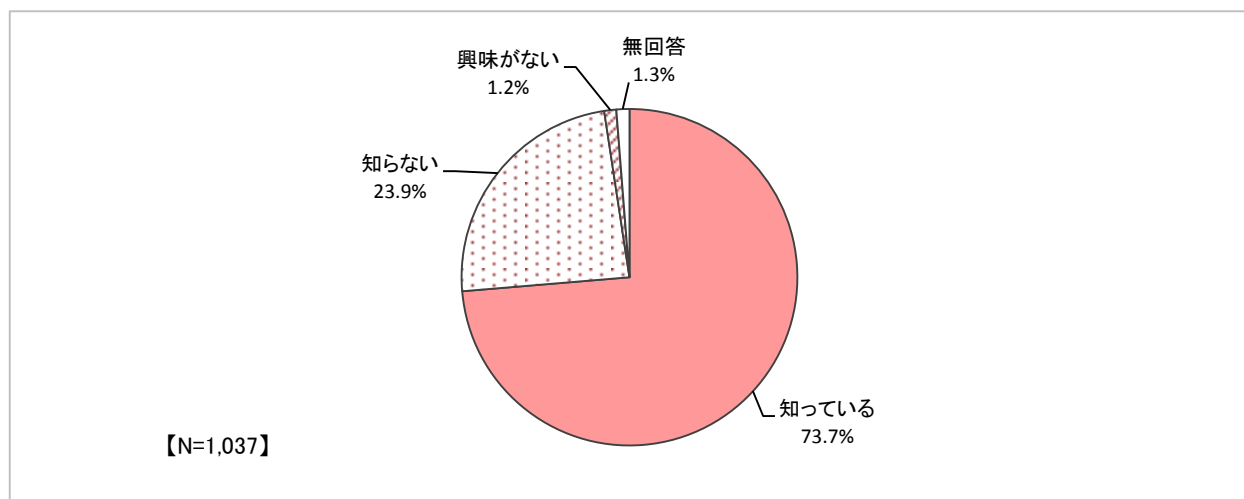
(6) 診療所と病院の役割分担の仕組みに対する認知度

国の医療制度改革による、診療所と病院の役割分担の仕組みに対する認知度は、「知っている」が73.7%、「知らない」が23.9%となっています。

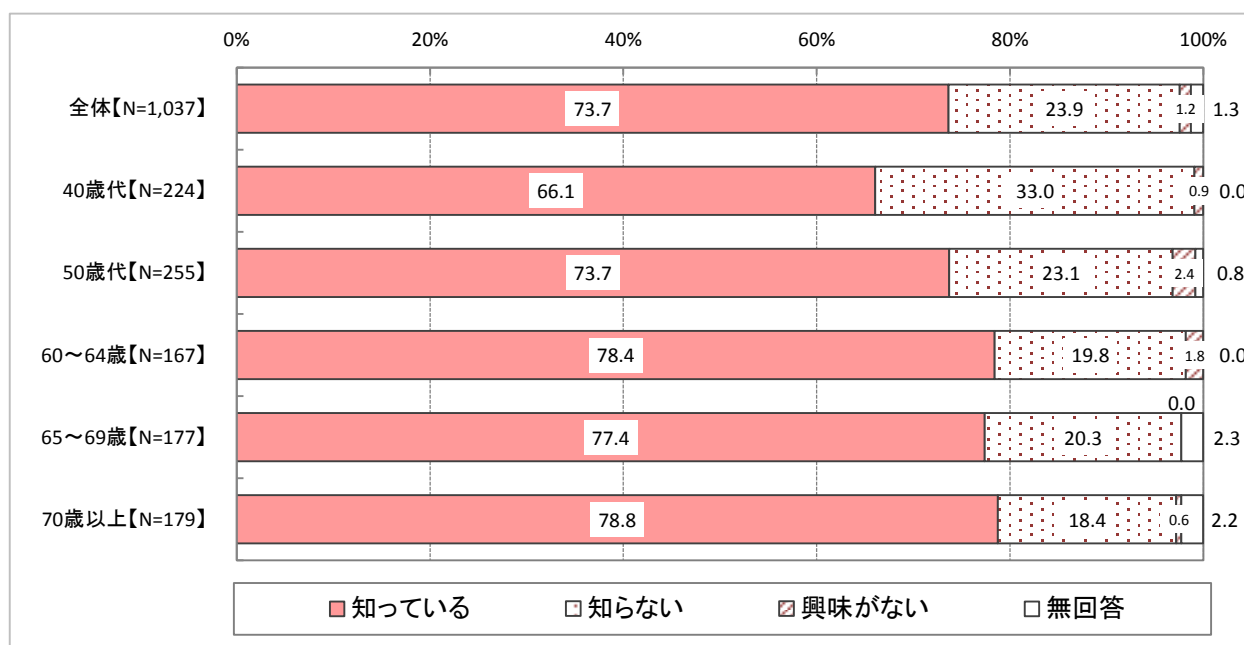
年齢別にみると、年代が高いほど、「知っている」が多くなっています。

中学校区別にみると、「知っている」は中央中学校区で78.6%と最も多く、彦根中学校区で69.2%と最も少なくなっています。

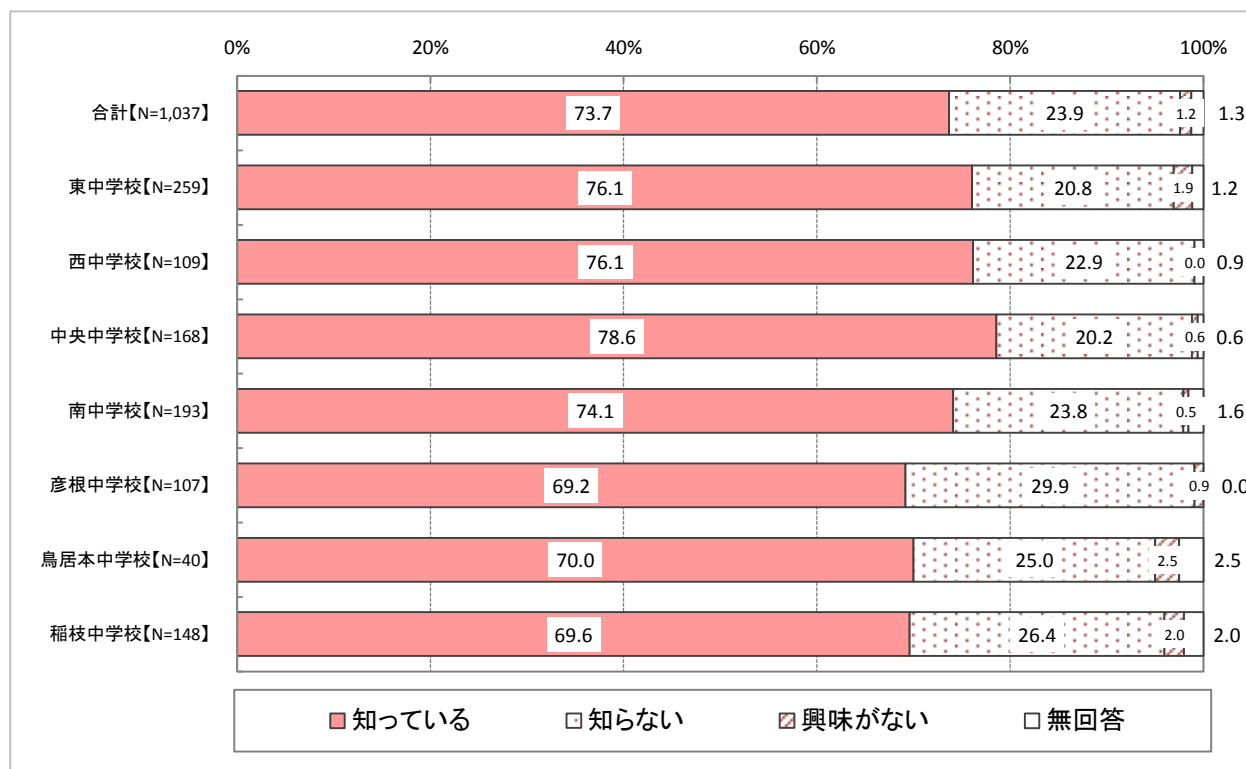
【図 42 診療所と病院の役割分担の仕組みに対する認知度】



【図 43 診療所と病院の役割分担の仕組みに対する認知度／年齢別】



【図 44 診療所と病院の役割分担の仕組みに対する認知度／中学校区別】

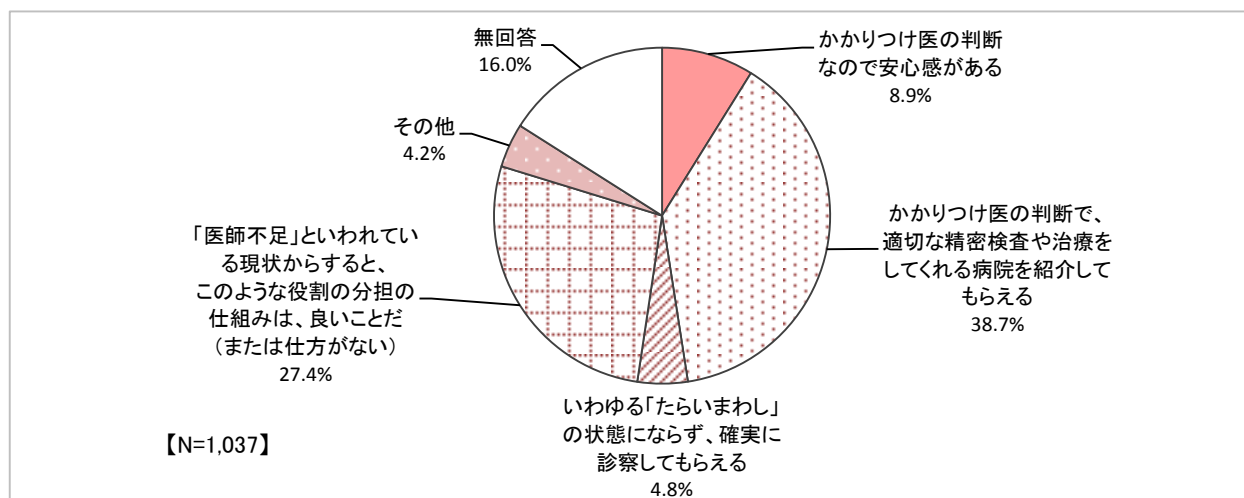


(7) 診療所と病院の役割分担の仕組みに対して良いと思う点

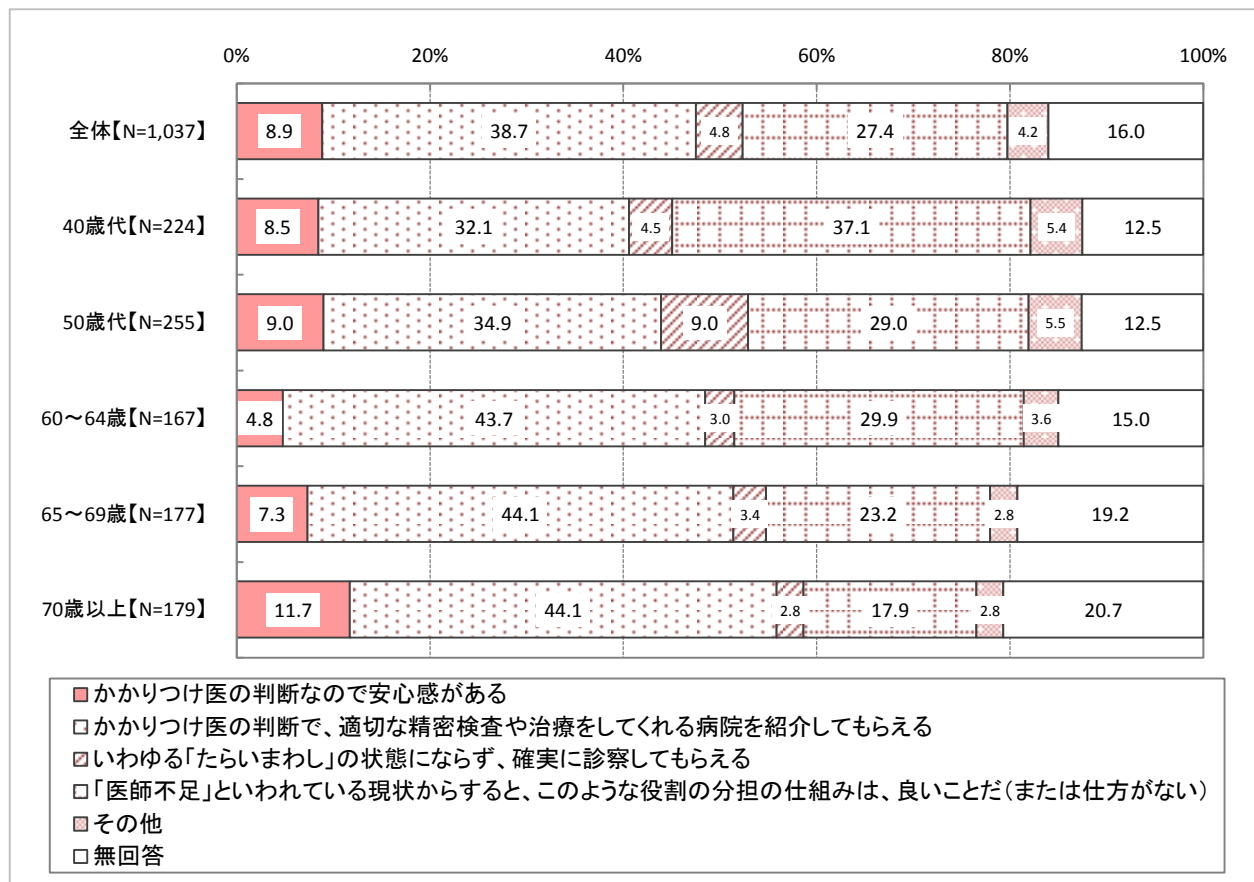
国の医療制度改革による、診療所と病院の役割分担の仕組みに対して良いと思う点は、「かかりつけ医の判断で、適切な精密検査や治療をしてくれる病院を紹介してもらえる」が38.7%と最も多く、次いで「医師不足」といわれている現状からすると、このような役割の分担の仕組みは、良いことだ（または仕方がない）」が27.4%となっています。

年齢別にみると、年齢が高いほど、「かかりつけ医の判断で、適切な精密検査や治療をしてくれる病院を紹介してもらえる」が多く、「医師不足」といわれている現状からすると、このような役割の分担の仕組みは、良いことだ（または仕方がない）」が少なくなっています。

【図 45 診療所と病院の役割分担の仕組みに対して良いと思う点】



【図 46 診療所と病院の役割分担の仕組みに対して良いと思う点／年齢別】



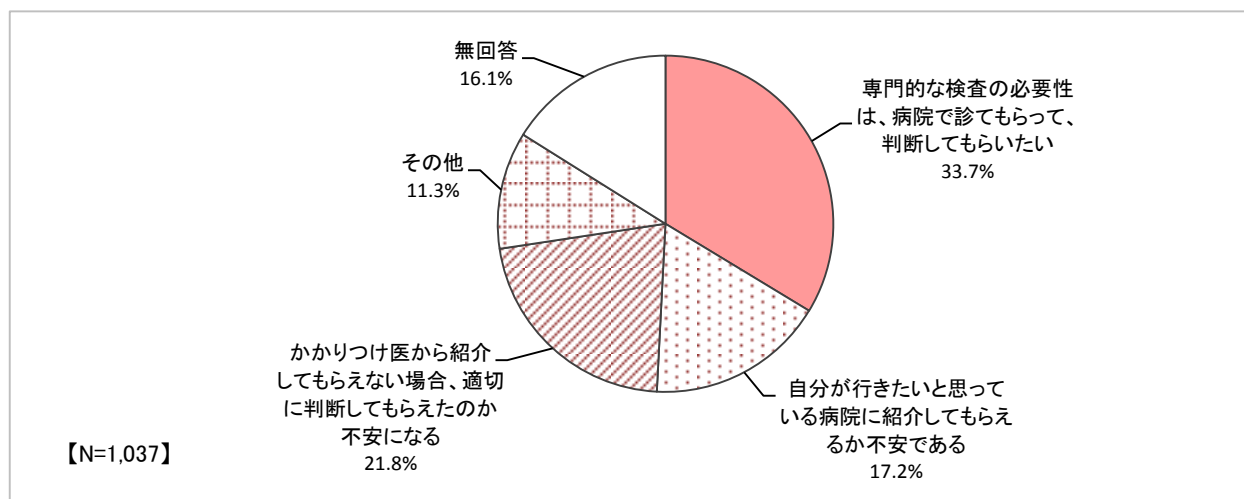
(8) 診療所と病院の役割分担の仕組みに対して不安に思う点

国の医療制度改革による、診療所と彦根市立病院の役割分担の仕組みに対して不安に思う点は、「専門的な検査の必要性は、病院で診てもらって、判断してもらいたい」が 33.7%と最も多く、次いで「かかりつけ医から紹介してもらえない場合、適切に判断してもらえたのか不安になる」が 21.8%となっています。

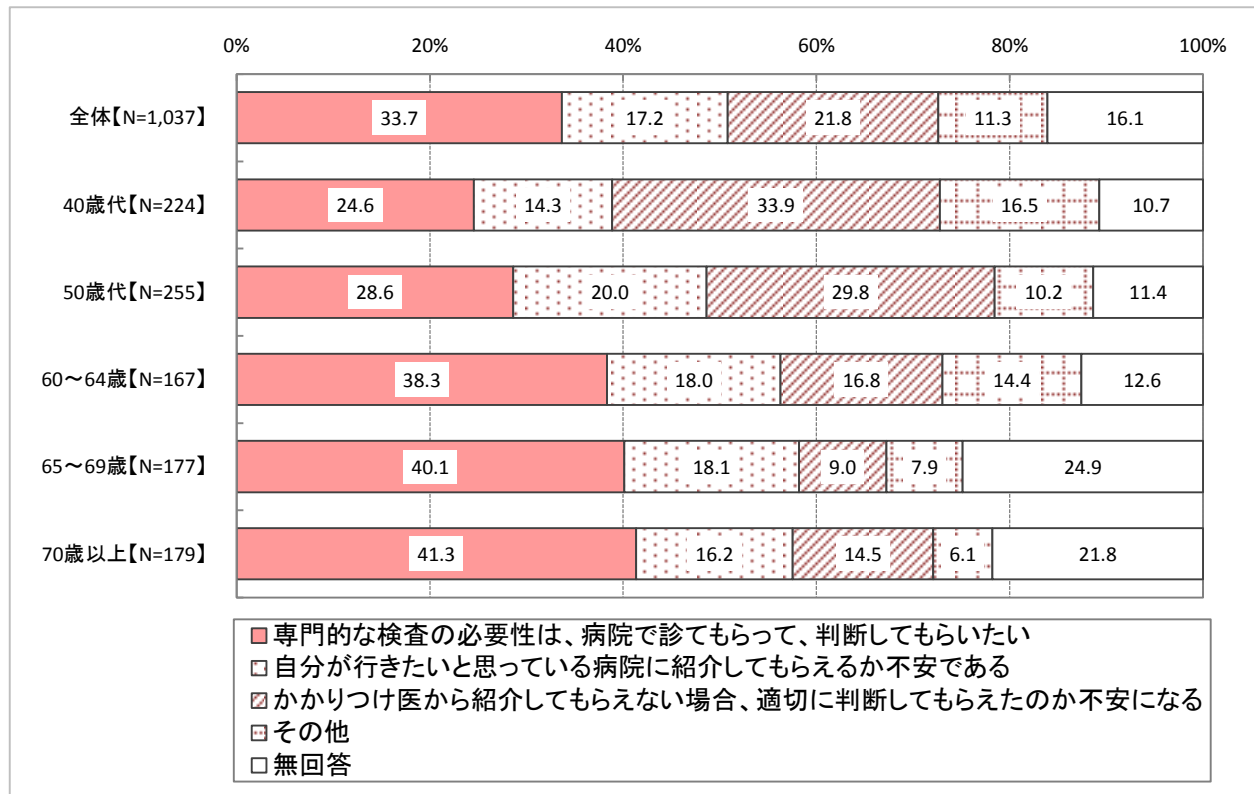
年齢別にみると、年齢が高いほど「専門的な検査の必要性は、病院で診てもらって、判断してもらいたい」が多く、「かかりつけ医から紹介してもらえない場合、適切に判断してもらえたのか不安になる」が概ね少なくなっています。

中学校区別にみると、「専門的な検査の必要性は、病院で診てもらって、判断してもらいたい」は東中学校区・西中学校区・鳥居本中学校区で約 4 割弱とやや多くなっています。「かかりつけ医から紹介してもらえない場合、適切に判断してもらえたのか不安になる」は彦根中学校区でやや多くなっています。

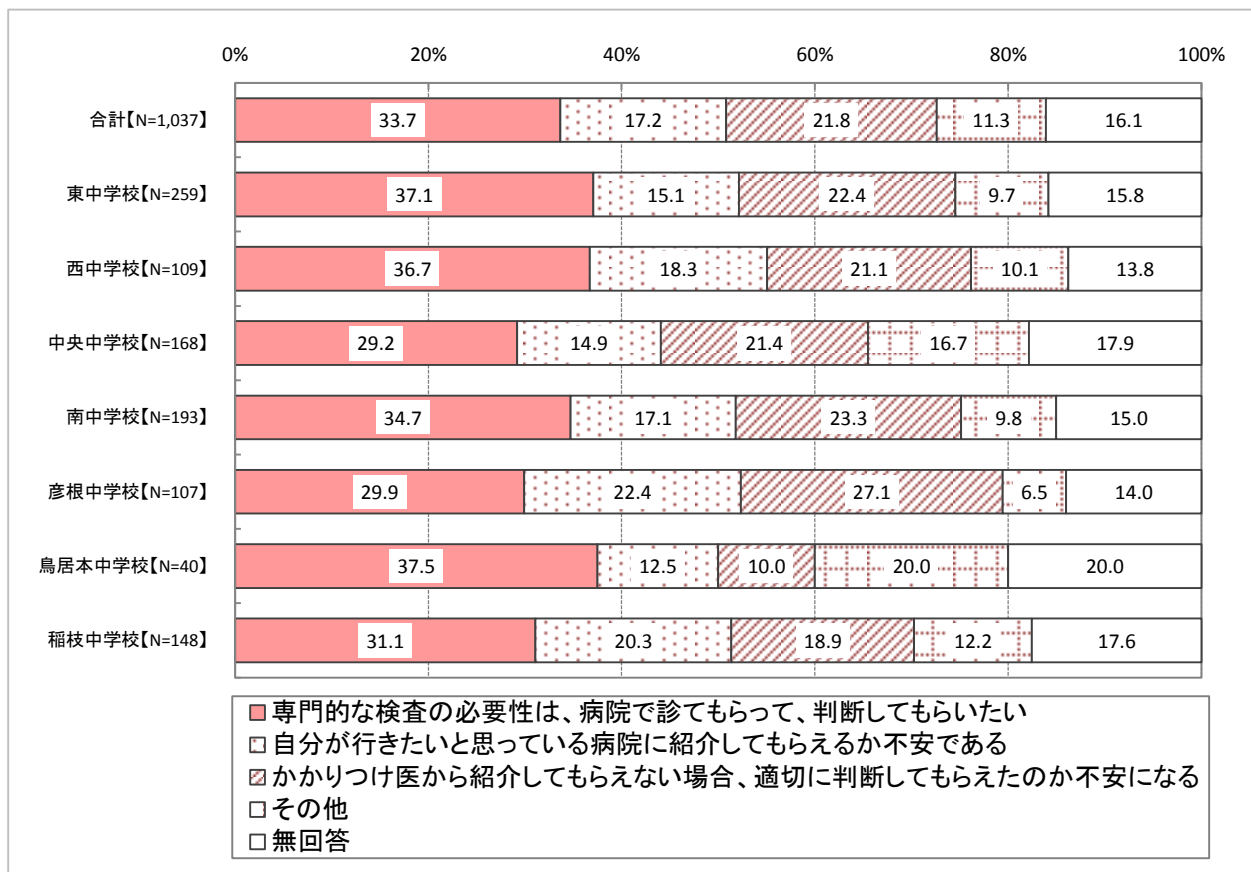
【図 47 診療所と病院の役割分担の仕組みに対して不安に思う点】



【図 48 診療所と病院の役割分担の仕組みに対して不安に思う点／年齢別】



【図 49 診療所と病院の役割分担の仕組みに対して不安に思う点／中学校区別】

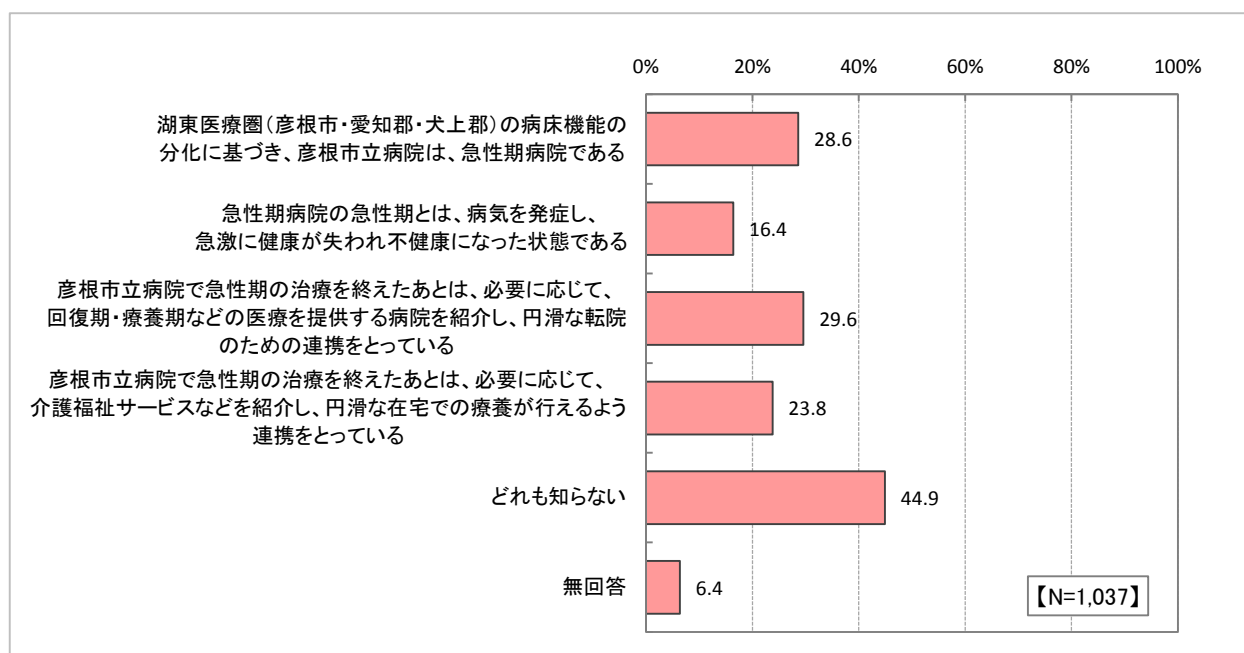


(9) 彦根市立病院の特徴として知っていること

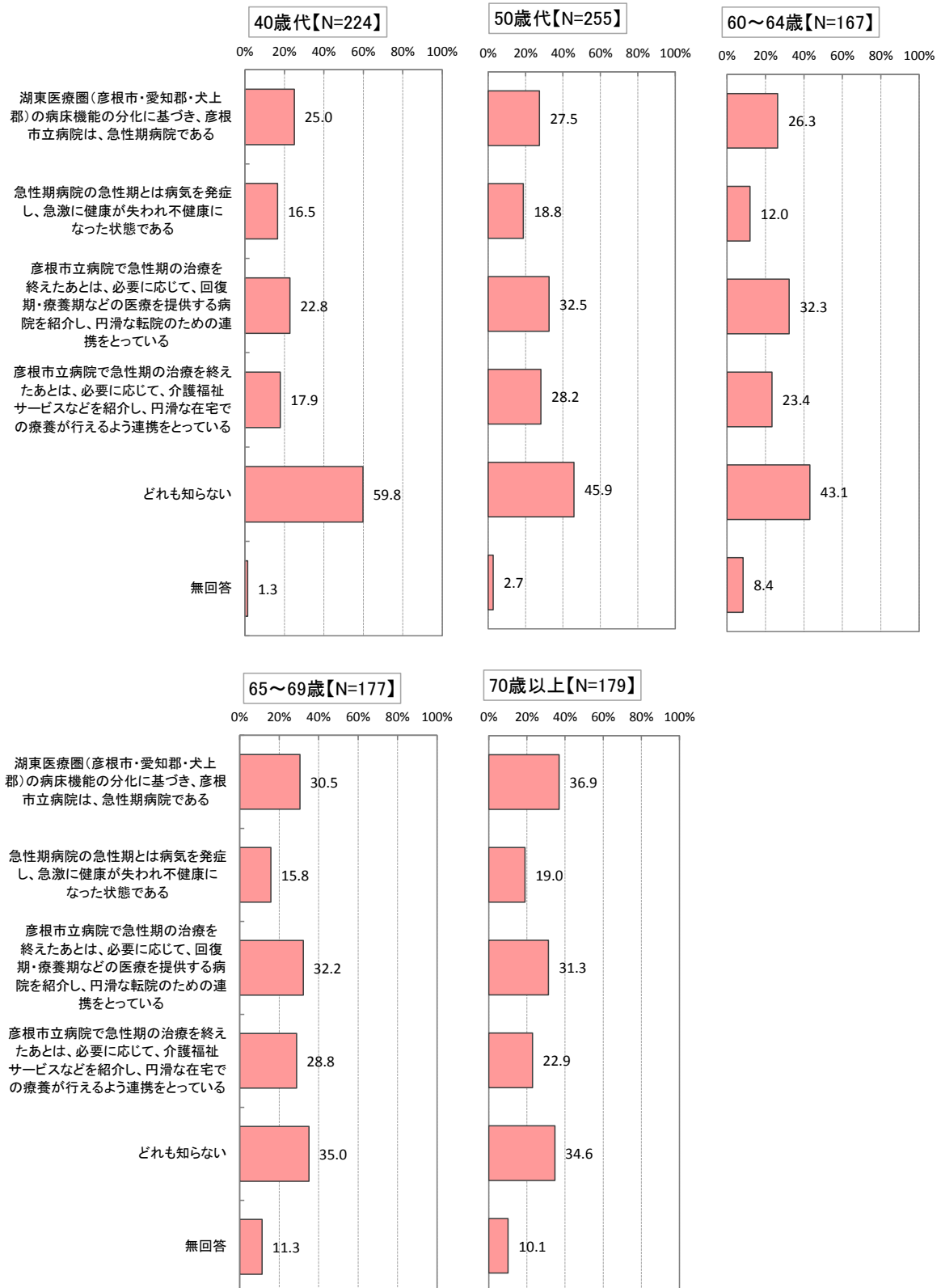
彦根市立病院の特徴については、「どれも知らない」が 44.9%と最も多くなっています。知っている特徴は、円滑な転院のための連携に関する項目で 29.6%と最も多くなっていますが、いずれも 3 割を下回っています。

年齢別にみると、年齢が低いほど、「どれも知らない」が多くなっています。

【図 50 彦根市立病院の特徴として知っていること】複数回答



【図 51 彦根市立病院の特徴として知っていること／年齢別】複数回答

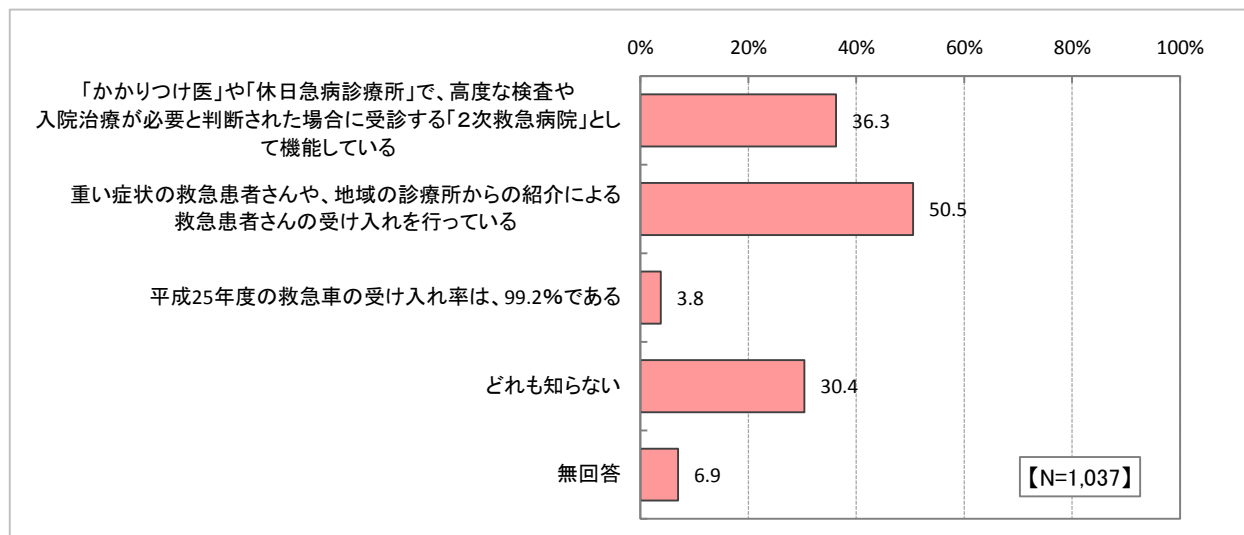


(10) 湖東医療圏における彦根市立病院の救急医療体制について知っていること

湖東医療圏における彦根市立病院の救急医療体制について知っていることは、「重い症状の救急患者さんや、地域の診療所からの紹介による救急患者さんの受け入れを行っている」が 50.5%と最も多く、次いで、2次救急病院としての機能についてが 36.3%となっています。救急車の受け入れ率が高いことはほとんど知られていません。また、「どれも知らない」は約3割あります。

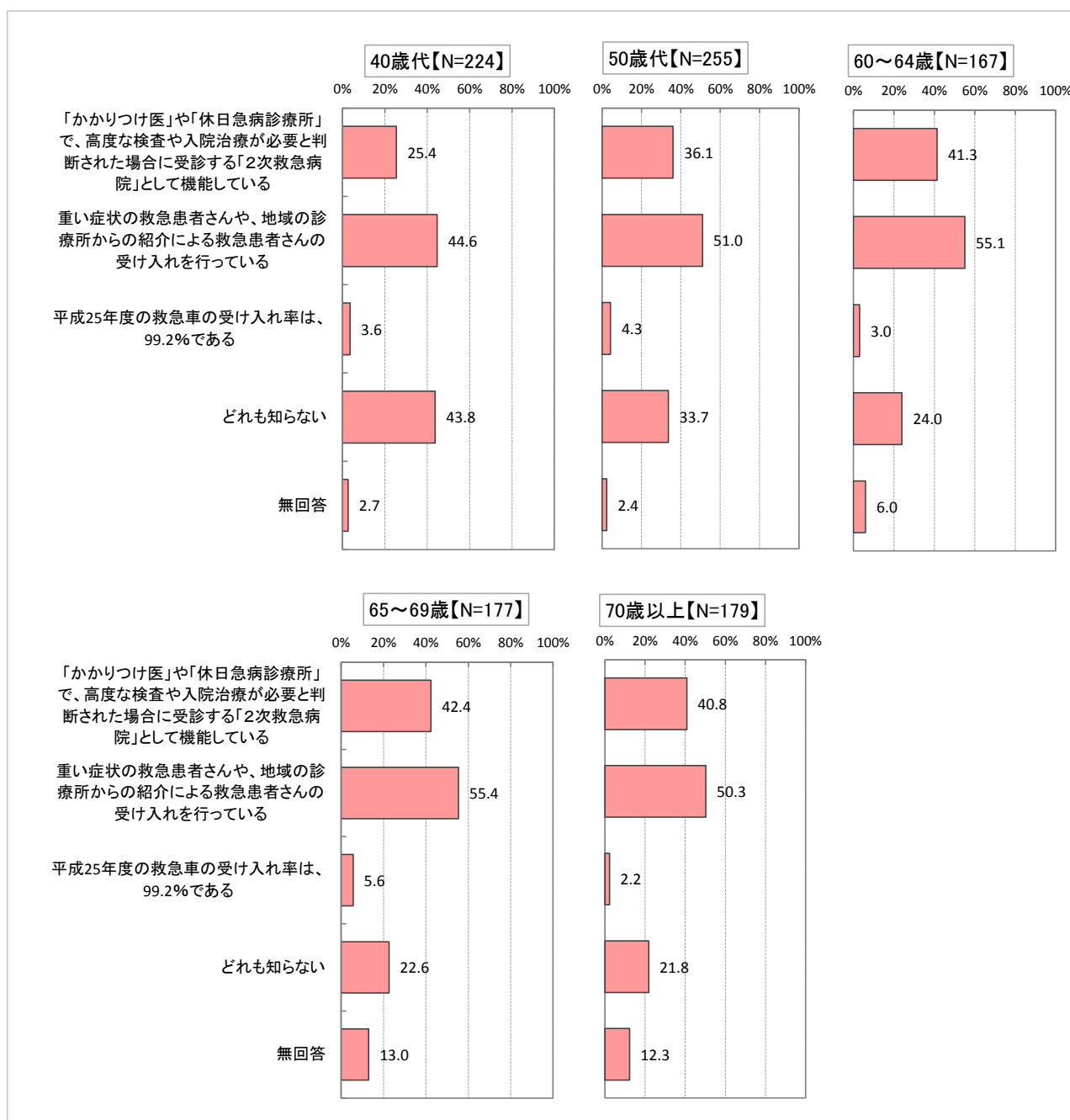
年齢別にみると、年齢が低いほど、「どれも知らない」が多くなっています。

【図 52 湖東医療圏における彦根市立病院の救急医療体制について知っていること】複数回答



【図 53 湖東医療圏における彦根市立病院の救急医療体制について知っていること／年齢別】

複数回答

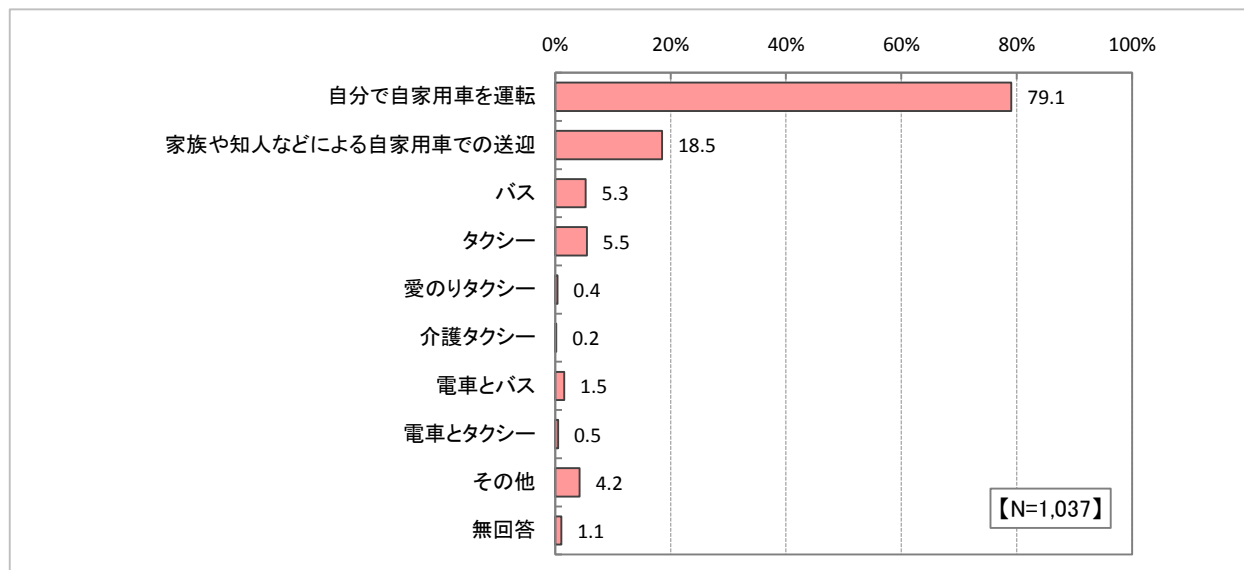


(11) 彦根市立病院への交通手段

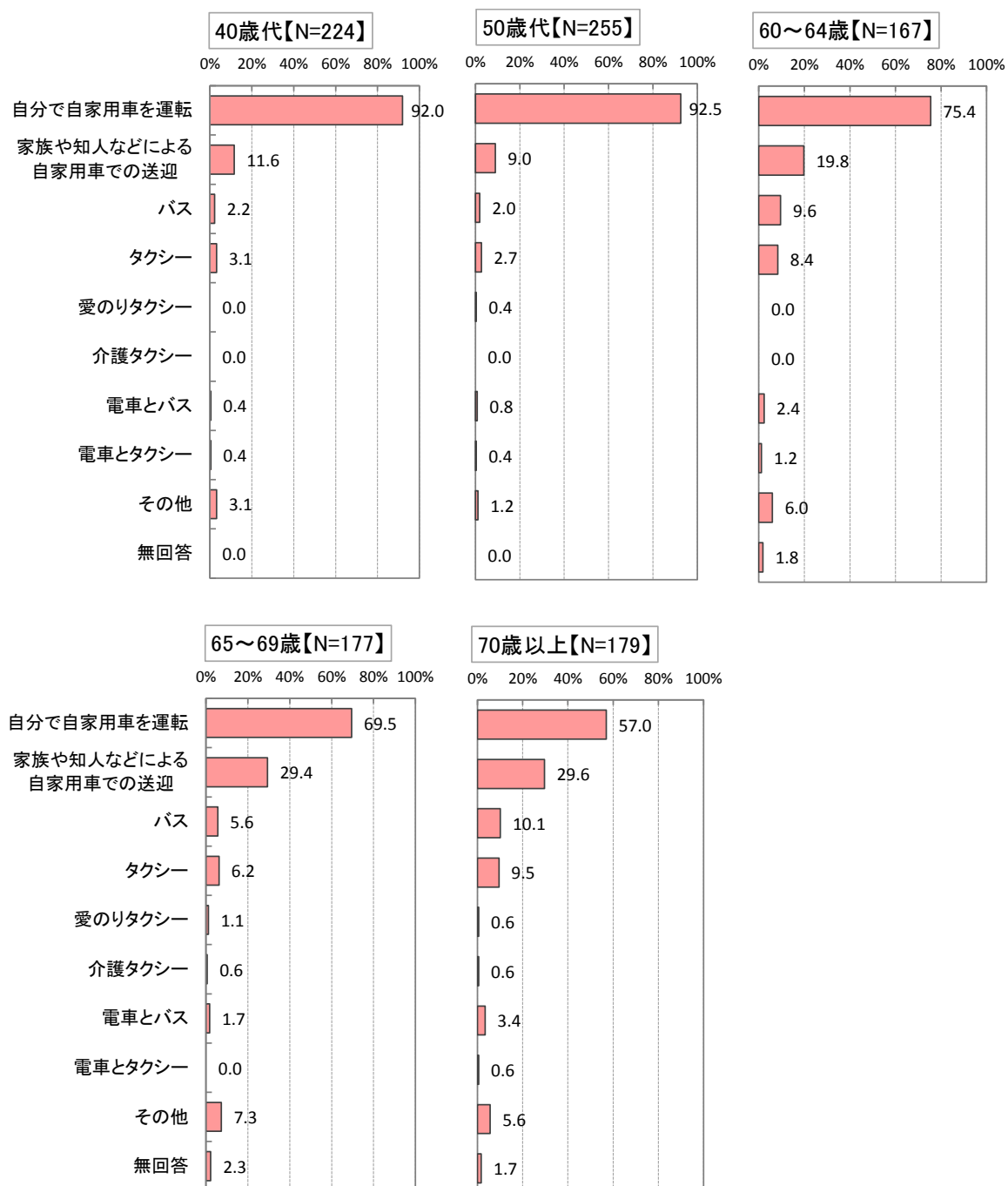
彦根市立病院への交通手段は、「自分で自家用車を運転」が 79.1%と、他の交通手段を大きく上回っています。

年齢別にみると、概ね年齢が低いほど、「自分で自家用車を運転」が多くなっています。一方、65 歳以上の約 3 割は「家族や知人などによる自家用車での送迎」となっています。

【図 54 彦根市立病院への交通手段】複数回答



【図 55 彦根市立病院への交通手段／年齢別】複数回答



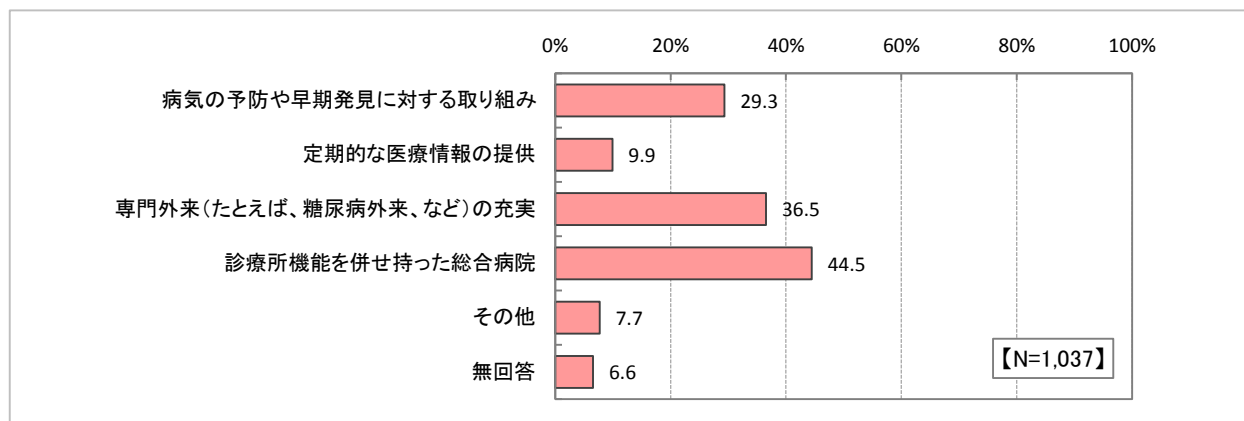
(12) 今後、彦根市立病院に期待する役割

今後、彦根市立病院に期待する役割は、「診療所機能を併せ持った総合病院」が 44.5%と最も多く、次いで「専門外来（たとえば、糖尿病外来、など）の充実」が 36.5%となっています。

身近な医療機関となることと、専門性の充実を期待されていることがうかがえます。

年齢別にみると、50 歳代以降で「診療所機能を併せ持った総合病院」が多くなっています。一方、年齢が低いほど、「専門外来（たとえば、糖尿病外来、など）の充実」が多くなっています。

【図 56 今後、彦根市立病院に期待する役割】複数回答



【図 57 今後、彦根市立病院に期待する役割／年齢別】複数回答



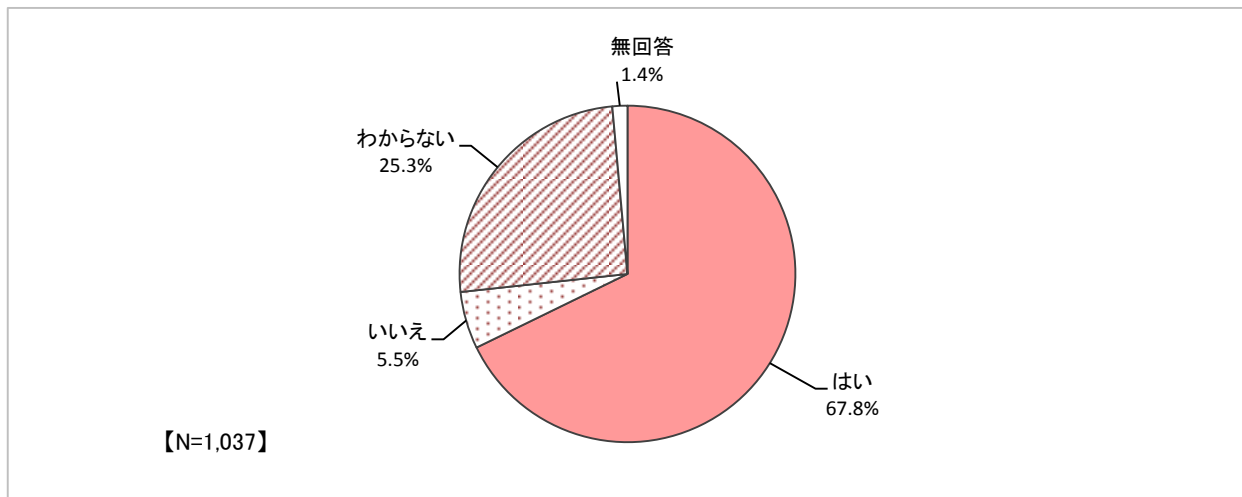
5. 自分らしい人生と暮らしや医療の関係について

(1) 人生の最後まで、彦根で暮らしたいか

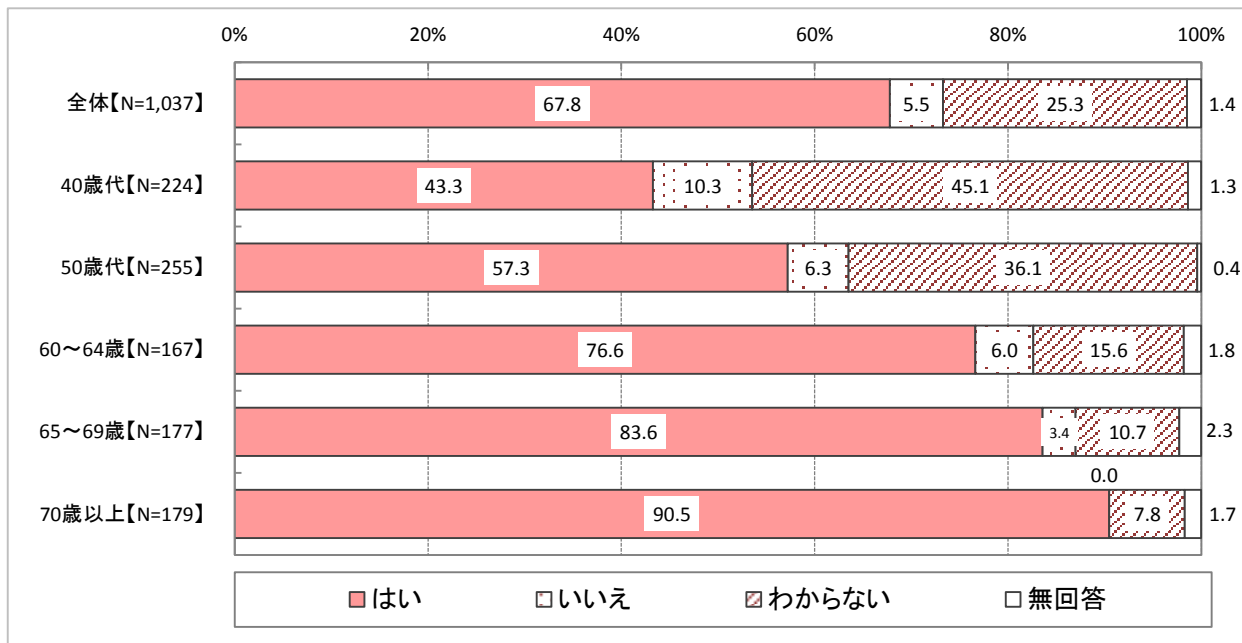
人生の最後まで、彦根で暮らしたいと思う人（「はい」）は67.8%と約7割に上ります。

年齢別にみると、40歳代では「はい」は約4割にとどまっていますが、70歳以上では約9割に上っており、年齢が高いほど、彦根で暮らしたいと思う人が多くなっています。

【図 58 人生の最後まで、彦根で暮らしたいか】



【図 59 人生の最後まで、彦根で暮らしたいか／年齢別】



(2) 住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けるために必要と思うこと

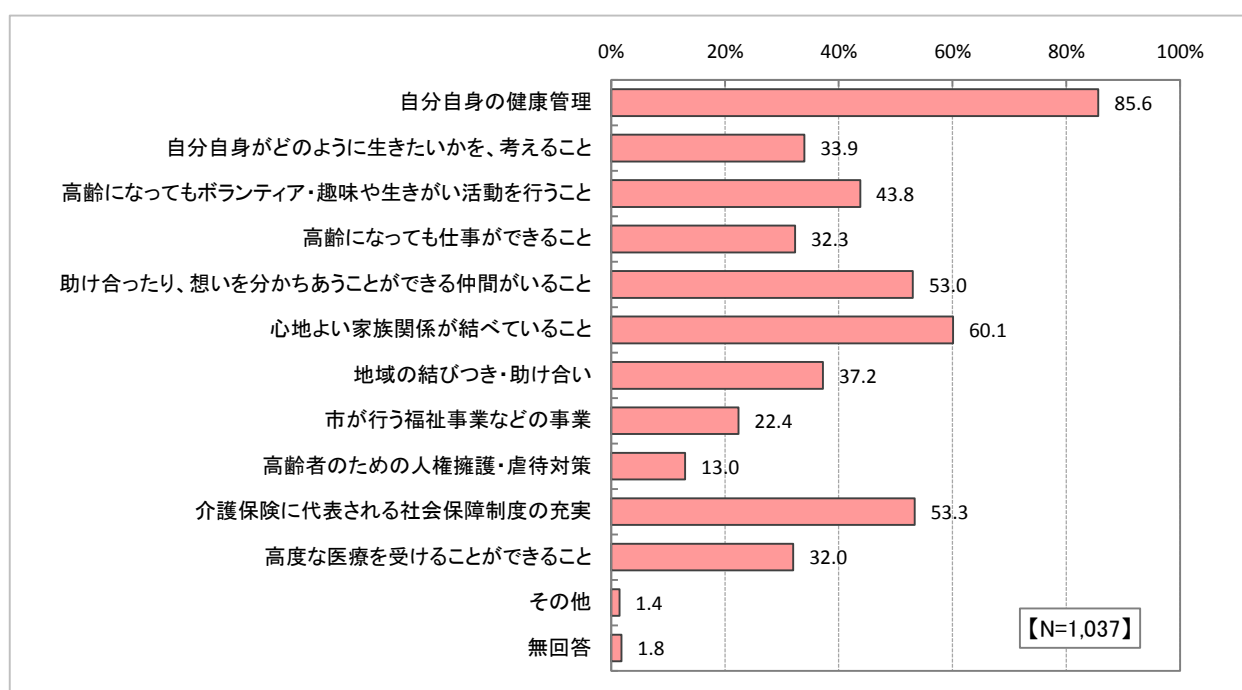
住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けるために必要と思うことは、「自分自身の健康管理」が85.6%と最も多く、次いで「心地よい家族関係が結べていること」が60.1%、「介護保険に代表される社会保障制度の充実」が53.3%、「助け合ったり、思いを分かちあうことができる仲間がいること」が53.0%となっています。

自身の健康をはじめとし、介護保険などの共助と、家族や周囲との良いつながりによる互助が必要であると考える人が多いことがうかがえます。

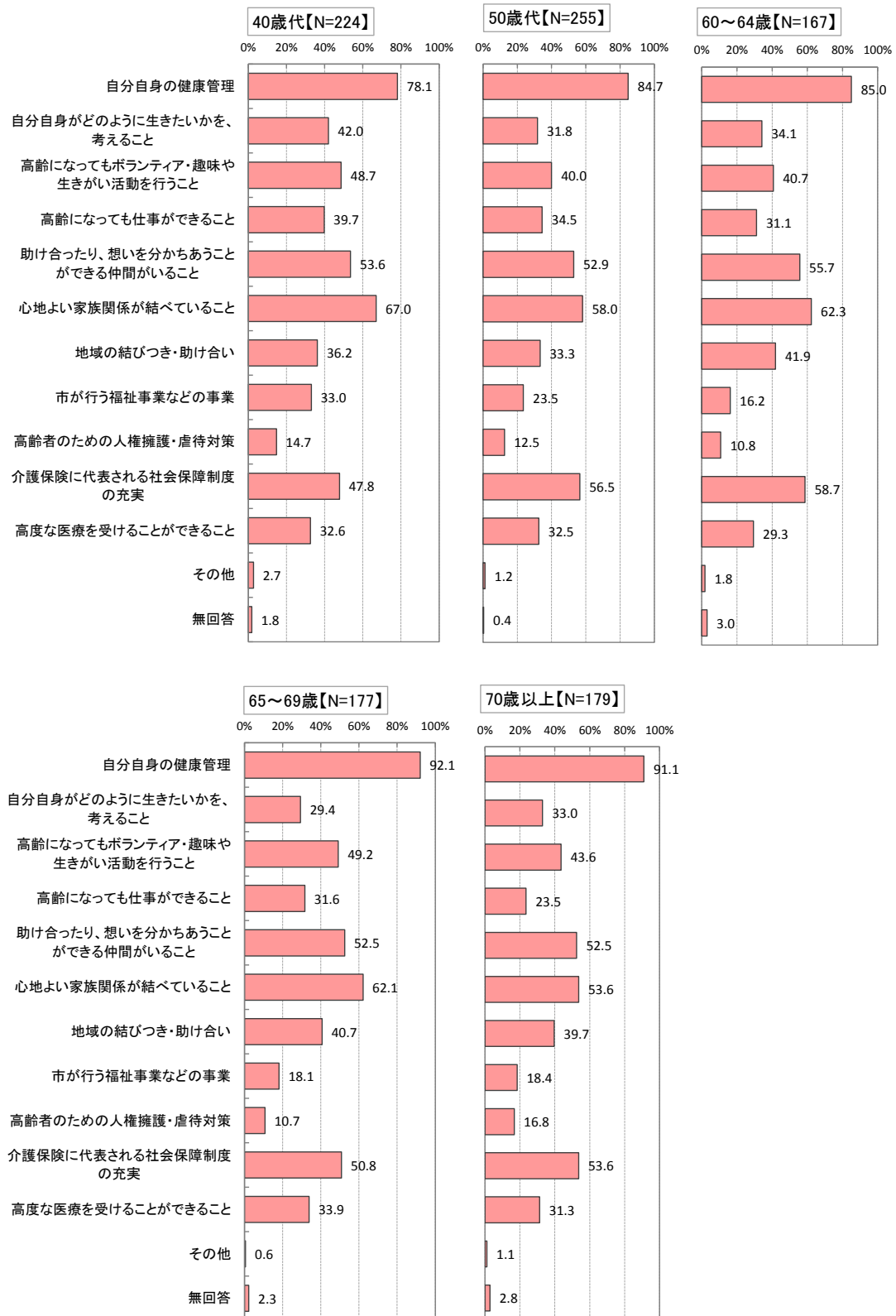
年齢別でみると、回答の傾向に大きな違いはみられませんが、概ね年齢が高いほど、「自分自身の健康管理」が多くなっています。

【図 60 住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けるために必要と思うこと】

複数回答



【図 61 住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けるために必要と思うこと
／年齢別】複数回答



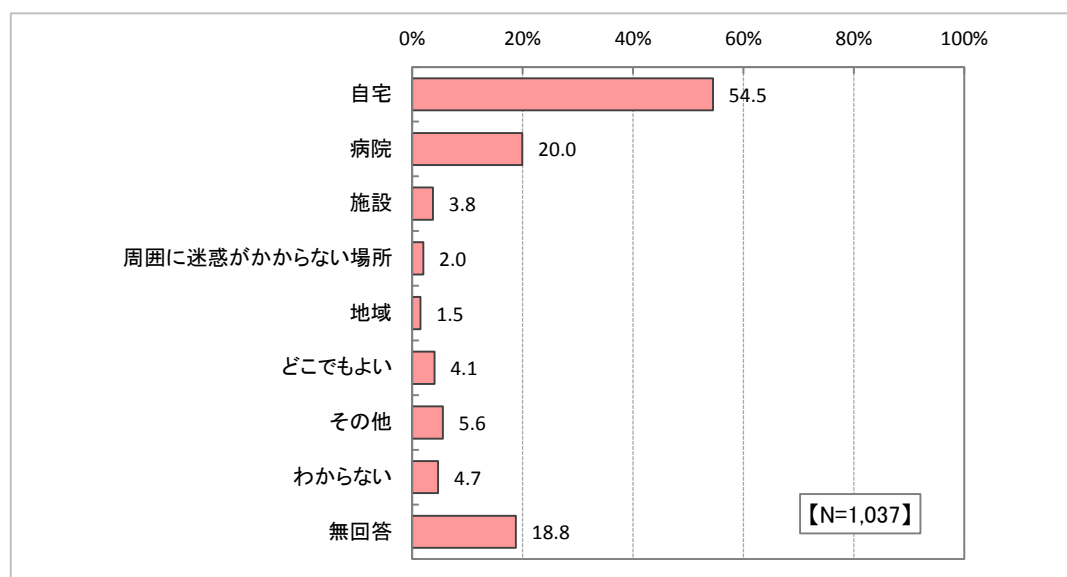
(3) 人生の最後をどこで迎えたいか

人生の最後をどこで迎えたいかについて、自由記載の方式で回答を求め、記載内容を下記のように分類し、複数回答で集計しました。

「自宅」が54.5%と最も多く、次いで「病院」が20.0%となっています。

年齢別にみると、回答の傾向に大きな違いはみられませんが、概ね年齢が高いほど、「自宅」が多くなっています。

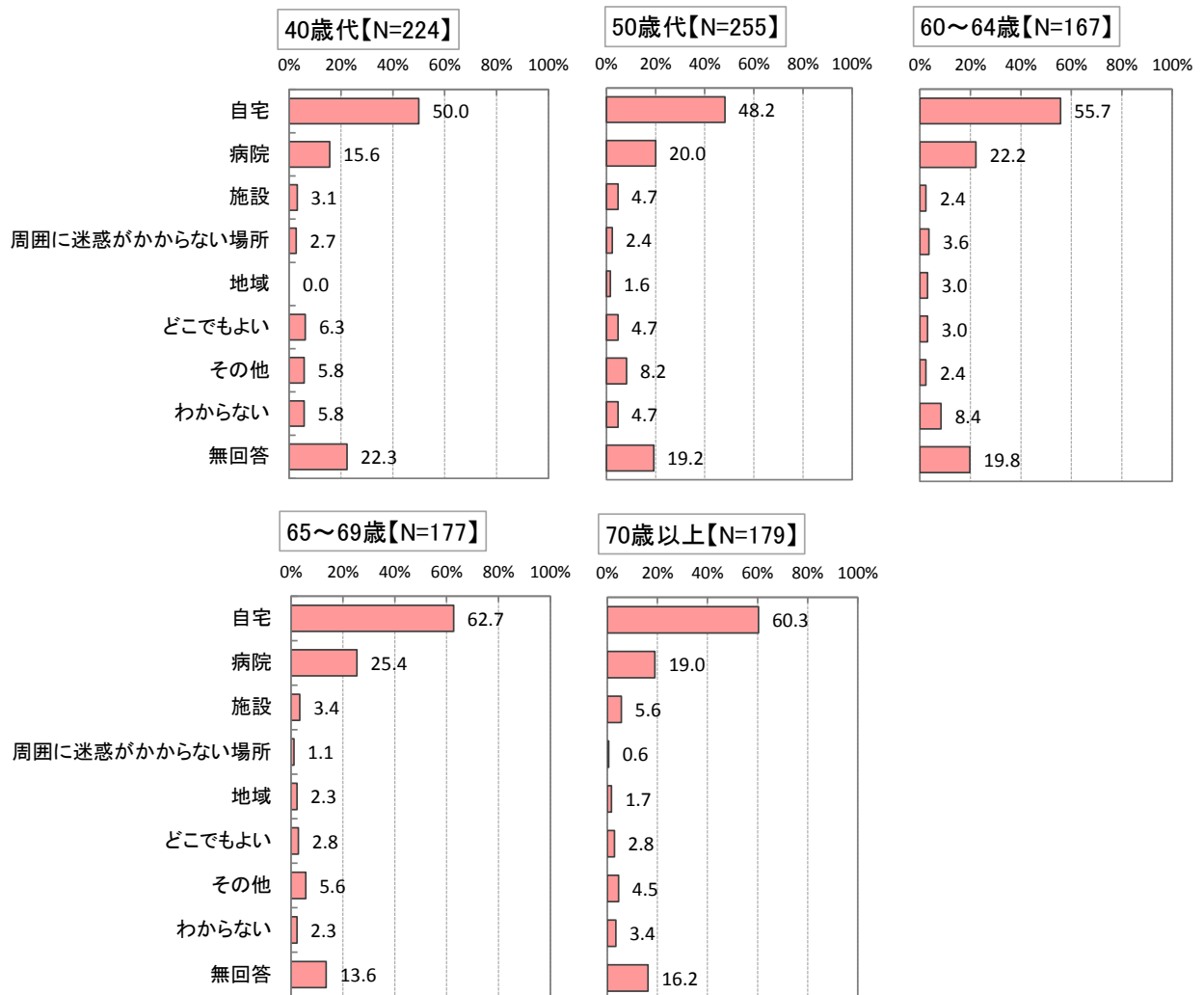
【図 62 人生の最後をどこで迎えたいか】複数回答



※記載内容の分類

分類	記載内容
自宅	自宅、家、現住所、布団・ベッドの上、寝室 など
病院	病院、病院のベッド など
施設	施設、介護施設、ホスピス など
周囲に迷惑がかからない場所	周りに迷惑がかからないところ、家族に迷惑がかからないところ など
地域	彦根市、彦根実家、地元、住み慣れた地域 など
どこでもよい	どこでもよい、特になし など
その他	上記以外の回答
わからない	わからない、考えた事がない、なんともいえない など

【図 63 人生の最後をどこで迎えたいか／年齢別】複数回答



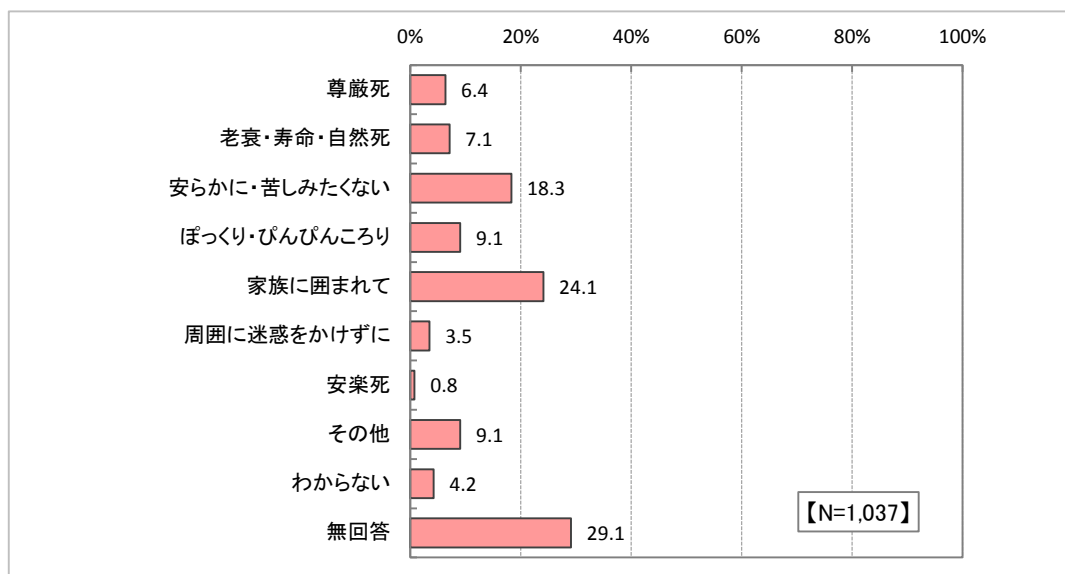
(4) 人生の最後をどんな状態で迎えたいか

人生の最後をどんな状態で迎えたいかについて、自由記載の方式で回答を求め、記載内容を下記のように分類し、複数回答で集計しました。

「家族に囲まれて」が24.1%と最も多く、次いで「安らかに・苦しみたくない」が18.3%となっています。

年齢別にみると、回答の傾向に大きな違いはみられませんが、年齢が低いほど、「家族に囲まれて」が多くなっています。

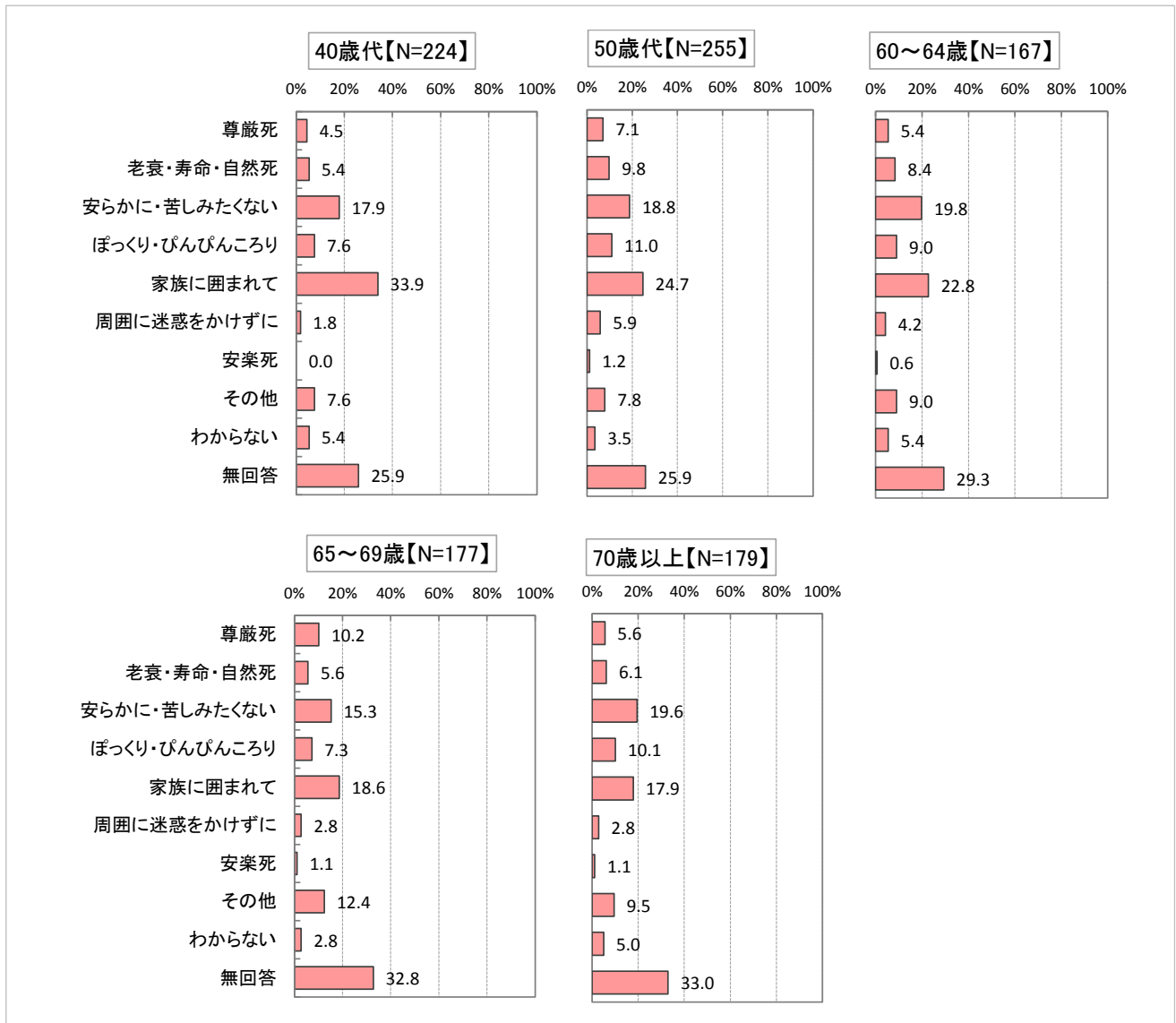
【図 64 人生の最後をどんな状態で迎えたいか】複数回答



※記載内容の分類

分類	記載内容
尊厳死	不必要な治療は受けたくない、医療機器につながれずに、延命処置はしない など
老衰・寿命・自然死	老衰、寿命で、自然に など
安らかに・苦しみたくない	痛みをとってほしい、苦痛のない状態で、静かに、眠るように、安らかに、おだやかに など
ぽっくり・ぴんぴんころり	ぽっくり、ぴんぴんころり、身体が動く状態で、健康である時に、睡眠時 など
家族に囲まれて	家族に見守られながら、家族とともに など
周囲に迷惑をかけずに	家族に迷惑をかけたくない、人の世話にならずに など
安楽死	安楽死
その他	上記以外の回答
わからない	わからない、考えた事がない、？ など

【図 65 人生の最後をどんな状態で迎えたいか／年齢別】複数回答

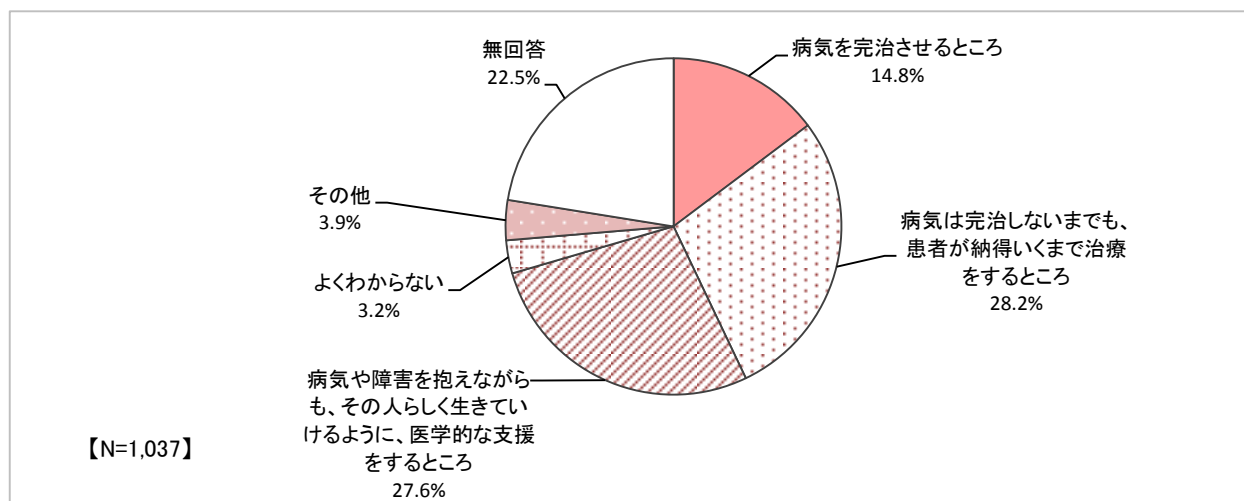


(5) 自身にとって病院とはどういうところか

「あなたにとって病院とは」という質問に対しては、「病気は完治しないまでも、患者が納得いくまで治療するところ」と「病気や障害を抱えながらも、その人らしく生きていけるように、医学的な支援をするところ」が、それぞれ約3割となっています。「病気を完治させるところ」は1割余りの回答となっており、完治を目指すより、その人の主体性を尊重しながら治療や支援を行う施設として病院をとらえていることがうかがえます。

年齢別にみると、40～50 歳代では「病気を完治させるところ」が他の年齢と比べてやや多くなっています。

【図 66 自身にとって病院とはどういうところか】



【図 67 自身にとって病院とはどういうところか／年齢別】

